

委託事業実施内容報告書

平成26年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 【地域日本語教育実践プログラム(A)】

受託団体名 社会福祉法人 さぼうとにじゅういち

1. 事業名称

外国人住民・日本人住民 共育ち日本語教室展開事業～「日々の暮らしを豊かにしよう！」を合言葉に～

2. 事業の目的

本事業の目的は、日本に暮らす外国人住民と日本人住民が共に学び、共に社会の一員として成長できるような日本語教室を展開していくこと、そのために必要となる人材育成や教材作成を実施することである。平成26年度は、これまでの3年間にわたる文化庁委託事業実施の経験をもとに、より現場の求めに応じた有益な取り組みを継続実施していく。

各取り組みの目的は以下の通りである。

■日本語教育については、「教室」および「活動型講座」の実施により、日本語教育支援の「モデル」を提供すること

■人材の養成・研修については、参加者の意識を「学ぶヒト」から「実践するヒト」に変えていくこと

■教材については、日本語教育支援の活動に広く利用可能な教材を提供すること。①「生活場面切取動画」付属の紙教材、②活動型講座の実践例集(含む実践のための資料やデータ、動画教材)を作成する

3. 事業内容の概要

■1-1 日本語教室「難民のための体験型初級日本語講座」の実施

様々な団体で実施が可能な日本語教育支援の形に近づけるため、「学習パートナー」(いわゆるボランティア)がクラス運営の要となるような教室を運営した。これまでの教室実施の振り返りから、「体験」を中心にしたクラス展開を有効と判断し、「体験型初級日本語講座」を実施した。

■1-2 ワークショップ(生活力UPのための活動型講座)の実施

これまでに実施した同種ワークショップの成果をふまえ、よりテーマを生活一般に広げ、日本語力の向上だけでは対処できない生活面の様々な事態に対応できる「生活力向上」のためのワークショップ(参加型講座)を行った。

■2 人材の養成・研修「地域日本語教室ボランティア・パワーアップ研修」の実施

「生活者としての外国人についての理解を深める講座」と「日本語教育支援のためのスキルアップ講座」の二本立てとした。

「理解を深める講座」は、日本語教育を多文化共生・ダイバーシティ社会の面からとらえ直し、広く在住外国人についての理解を深めることを目的とする。「医療通訳」「地域の多文化共生の拠点たりうる大学」をテーマとして「多文化共生」「連携」「専門性」をキーワードに実施した。

「スキルアップ講座」は、①実践的に学ぶ「タスク」②日本語教室見学③「ワークショップ」の実施(企画から実践、振り返りまで)を柱に実施した。

■3 学習教材「生活場面切取動画付属教材」・「生活力UPのための参加型講座・実践例集」を作成した。

※「2スキルアップ講座」受講生が「1-2ワークショップ」を一部実施し、その学びと成果物を集めた教材が「3実践例集」である。「2スキルアップ講座」受講者は「2理解を深める講座」で学びを深め、受講者の一部は「1-1日本語教室」ボランティアとして教室参加を果たした。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成26年5月 16日 17:15～19:45	2.5時間	認定NPO法人難民を助ける会会議スペース	高橋敬子(18:00まで) 矢崎理恵 奥原淳子 長崎清美 夢沼恵子 羽毛田恵美 池上貴之(17:45まで) 長島みどり	1委員の紹介 2今年度事業について 3スケジュールと担当等について	2 今年度事業の概要と主催団体としての狙いについて説明、質疑応答や意見交換 3 各取り組みのスケジュール決定、担当者決定、取り組みごとの留意点等具体的に意見交換 以降は、取り組みの担当者ごとの小委員会を中心に事業実施を進めることを決定
2	平成27年1月 18日 10:00～11:00	1時間	認定NPO法人難民を助ける会会議スペース	高橋敬子 矢崎理恵 奥原淳子 長崎清美 夢沼恵子 羽毛田恵美 池上貴之 石川苑子 長島みどり	1各取り組みの進捗状況について 2事業報告等の担当について	1 各取り組みの進捗を「日本語教育」「人材の養成・研修」「教材作成」各担当より報告 「人材の養成・育成」の成果物を「教材」として整えていくため、3月に教材作成の人員がより多く必要となることから、人員の増強を決定 2 3月25日までに各報告を完成させることに決定
3	平成27年3月 20日 17:00～19:30	2.5時間	認定NPO法人難民を助ける会会議スペース	高橋敬子 矢崎理恵 奥原淳子 長崎清美 夢沼恵子 羽毛田恵美 石川苑子(18:30～) 長島みどり	1各取り組みの内容と振り返り 2事業報告等について	1 各取り組みの内容を「日本語教育」「人材の養成・研修」「教材作成」各担当より報告、その後、成果や課題等について意見交換

* 以下は「日本語教育の実施」に関連して実施した運営委員会・小会議

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成26年8月 13日 18:00-21:00	3時間	認定NPO法人難民を助ける会会議スペース	矢崎理恵 羽毛田恵美 ディラン恵子	1これまでの「日本語教室」について 2今年度の「日本語教室」について	1 これまでの「日本語教室」の「課題」について意見交換 2 今年度の「日本語教室」についての進め方の検討。「体験」を指導者・学習者の目標として設定し、その達成に向けて各回の教室目標を設定していくことに決定。振り返りシートもそれにあわせて改定することに決定。
2	平成26年9月 27日 14:00-17:00	3時間	認定NPO法人難民を助ける会会議スペース	羽毛田恵美 ディラン恵子 長島みどり	1「日本語教室」の具体的な内容について	1 「日本語教室」の具体的な進め方について再度検討、振り返りシートの内容を決定。 応募状況では多国籍化が予想されるため、その対応を検討。

* 以下は「人材の養成・研修」に関連して実施した運営委員会・小会議

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成26年6月 24日 18:00-21:30	3.5時間	認定NPO法人難民を助ける会会議スペース	矢崎理恵 奥原淳子 夢沼淳子	1これまでの人材の養成・研修について 2今年度の人材の養成・研修について	1 いかに「より実践につながる研修が行えるか」等検討 2 「スキルアップ講座」「理解を深める講座」の二本立てとすることを決定
2	平成26年7月 6日 16:30-18:30	2時間	認定NPO法人難民を助ける会会議スペース	矢崎理恵 奥原淳子 夢沼淳子 長崎清美	1「スキルアップ講座」の内容について 2「理解を深める講座」の内容について	1 「スキルアップ講座」の内容についてほぼ決定、講師は運営委員、コーディネーター自らが担当することを決定 2 「理解を深める講座」の主たるテーマ、講師候補を決定
3	平成26年9月 14日 16:00-22:00	6時間	認定NPO法人難民を助ける会会議スペース	矢崎理恵 奥原淳子 夢沼淳子 長崎清美	1「スキルアップ講座」の内容について	1 受講者情報をもとに「講座」「日本語教室見学」「ワークショップ実践」の詳細を検討、全体の進め方を決定
4	平成26年9月 22日 18:00-22:00	4時間	荻窪(喫茶店利用)	矢崎理恵 奥原淳子 長崎清美	1「スキルアップ講座」の内容について	1 第1回の内容を再度検討、第1回のプレゼン資料・配布資料検討、アンケート内容決定、
5	平成26年9月 27日 16:00-17:30	1.5時間	御茶ノ水(喫茶店利用)	奥原淳子 夢沼淳子 長崎清美	1「スキルアップ講座」の内容について	1 第1回の講座振り返りと以降の進め方の再検討
6	平成26年10月 11日 13:30-16:00	2.5時間	目黒(喫茶店利用)	奥原淳子 長崎清美	1「スキルアップ講座」の内容について 2「理解を深める講座」の内容について	1 ワークショップ実践について内容の検討、日本語教室見学について内容や手配状況について共有と意見交換 2 第1回「理解を深める講座」の内容、広報についておおむね決定
7	平成27年1月 17日 14:00-15:00	1時間	目黒(喫茶店利用)	奥原淳子 夢沼淳子 長崎清美	1「スキルアップ講座」の内容について 2「理解を深める講座」の内容について	1ワークショップ実践(第1回目)を行って、以降3回の実践についての再検討 2第2回「理解を深める講座」の内容について情報共有 * 1/18の運営委員会での報告事項確認
8	平成27年3月 6日 18:30-20:30	2時間	認定NPO法人難民を助ける会会議スペース	矢崎理恵 奥原淳子 夢沼淳子	1「スキルアップ講座」について	1最終回の進め方について検討、報告書の分担を決定

5. 日本語教育の実施

(1) 講座名称

体験を通して学ぶ初級日本語講座

(2) 目的・目標

- ・生活者としての外国人である受講者(難民)が日常生活において最低限必要とされる生活上の行為を日本語で行える(または、行えるという意識がもてる)ようになること。あわせて、日本社会の一員としての権利や義務を理解した上で、各人が日本社会の一員としての意識を高め、日々の生活の豊かさを求める姿勢がもてるようになること
- ・ボランティアで参加する日本人住民が、教室での活動を通じて、外国人住民への理解を深め、コミュニケーション力を向上させ、教室での学びを日々の生活に生かして、外国人住民と共に暮らす日常を楽しめるようになること

(3) 対象者

東京近郊に在住する難民で、日本語でのコミュニケーションがほとんどできない人

(4) 開催時間数(回数) 52.5 時間 (全 21 回)

(5) 使用した教材・リソース

- ・『はじめの500語』(当会作成教材)
- ・『あいうえおのれんしゅう』『アイウエオのれんしゅう』(当会作成教材)
- ・講師作成教材

(6) 受講者の総数 15 人

出身・国籍別内訳

中国	人	インドネシア	人	※その他
韓国	人	タイ	人	ミャンマー10人・ガーナ2人・ギニア1人
ブラジル	人	ペルー	人	エジプト1人・エチオピア1人
ベトナム	人	フィリピン	人	
ネパール	人	日本	人	

(7) 日本語教室の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	補助者名
1	平成26年10月11日(土) 13:00-15:40	2.5時間	ホテル・ウィングイン ターナショナル目黒 会議室	9人	ミャンマー(5人) ガーナ(2人) エジプト(1人) ギニア(1人)	VII-14 他者との関係を円滑にする ●開講式(オリエンテーション) ●『日本語教室で勉強します』 ●『わたしを紹介します』	【語彙】0-12、～時、電話番号、自己紹介の言葉(名前、国、家族、趣味など) 【語彙／動詞】起きる・食べる・寝る 【目標項目】自己紹介ができる、欠席の電話がかかけられる、自分の名前が書ける、日本語が上手になったら何をしたいのかを考える 【文字】2グループに分かれて実施 A: ひらがな清音 B: ひらがな清音	ディラン恵子	羽毛田恵美 ※ボランティア 5人 ※通訳ボランティア2人
2	平成26年10月18日(土) 13:00-15:40	2.5時間	ホテル・ウィングイン ターナショナル目黒 会議室	8人	ミャンマー(4人) ガーナ(2人) エジプト(1人) ギニア(1人)	VII-14 他者との関係を円滑にする ●『挨拶しましょう』	【語彙】挨拶の言葉、秋の食べ物の名前、月日、曜日 【語彙／動詞】乗る・座る・帰る・読む・休む・飲む 【目標項目】日常のあいさつができる、自国について話す事ができる、ボランティアに聞きたいことを質問することができる 【文字】A: ひらがな濁音 B: ひらがな清音	ディラン恵子	羽毛田恵美 ※ボランティア 1人 ※保育ボランティア 1人
3	平成26年10月25日(土) 13:00-15:40	2.5時間	ホテル・ウィングイン ターナショナル目黒 会議室	9人	ミャンマー(5人) ガーナ(2人) エジプト(1人) ギニア(1人)	VII-14 他者との関係を円滑にする ●おしゃべりタイム @さぼうと21	【語彙】『おしゃべりタイム』の言葉(「今、いいですか。」「質問してもいいですか?」「もう一度お願いします」「すみません、わかりません」) 【語彙／動詞】行く・持つていく 【目標項目】『おしゃべりタイム』のパートナーに自己紹介ができる、『おしゃべりタイム』のパートナーに自分の国について話せる、『おしゃべりタイム』のパートナーに質問ができる、パートナーとおしゃべりを楽しむ、★今月の目標である『他者との関わり方』でどんなことを習い、何ができるようになったかの振り返りをする 【文字】A: ひらがな濁音 B: ひらがな清音	ディラン恵子	羽毛田恵美 ※ボランティア 7人 ※保育ボランティア 1人
4	平成26年11月1日(土) 13:00-15:40	2.5時間	ホテル・ウィングイン ターナショナル目黒 会議室	8人	ミャンマー(4人) ガーナ(2人) エジプト(1人) ギニア(1人) エチオピア(1人)	VII-14 他者との関係を円滑にする ●『私の国を案内します』	【語彙】あいさつのことば復習 【語彙／動詞】乗る・座る・帰る・連れて行く・泳ぐ 【目標項目】自分の国について話すことができる、クラスメートの国について質問ができる、教師の故郷について質問する 【文字】A: カタカナ B: ひらがな清音	ディラン恵子	羽毛田恵美 ※ボランティア 4人 ※保育ボランティア 1人

5	平成26年11月8日(土) 13:00-15:40	2.5時間	ホテル・ウイングインターナショナル目黒会議室	10人	ミャンマー(5人)ガーナ(2人)エジプト(1人)ギニア(1人)エチオピア(1人)	I-01-(01) 健康を保つ/医療機関で治療を受ける ●「病院に行きます」	【語彙】病院のことば、症状の言い方 【語彙／動詞】持つ、立つ、待つ 【目標項目】体の部位の名称が言える、病院の受付の会話が出来る、医師の指示のことばがわかる、症状を伝えることができる 【文字】A:カタカナことばのディクテーション B: ひらがな清音	ディラン恵子	羽毛田恵美 ※ボランティア 2人 ※保育ボランティア 1人
6	平成26年11月15日(土) 13:00-15:40	2.5時間	ホテル・ウイングインターナショナル目黒会議室	14人	ミャンマー(9人)ガーナ(2人)エジプト(1人)ギニア(1人)エチオピア(1人)	I-01-(01) 健康を保つ/医療機関で治療を受ける I-02-(05) 安全を守る/災害に備える ●「ちゃんと薬を飲みます」 ●「災害について勉強します」	【語彙】薬の飲み方・災害のことば 【語彙／動詞】会う 話し合う 手伝う 【目標項目】処方箋について学び、薬のもらい方を知る、もらった薬の飲み方・飲む時間について質問できる、薬袋に書かれている漢字の意味がわかる、電車で目的地へ行く時の質問のしかたを学ぶ 【文字】A: カタカナ長音のことば B:ひらがな拗音	ディラン恵子	羽毛田恵美 ※ボランティア 2人 ※保育ボランティア 1人
7	平成26年11月22日(土) 13:00-15:40	2.5時間	ホテル・ウイングインターナショナル目黒会議室	13人	ミャンマー(8人)ガーナ(2人)エジプト(1人)ギニア(1人)エチオピア(1人)	X-21-(46) 通信する/インターネットを利用する ●これまでの復習	【語彙】既習の動詞、形容詞復習 復習 【目標項目】今まで学習した動詞を復習する、既習の動詞を使って短文を作ってみる、既習の文字を復習する、パソコンを検索して目的地への行き方を調べる 【文字】A:ひらがな、カタカナ混じり文のディクテーション B: ひらがな促音	ディラン恵子	羽毛田恵美 ※ボランティア 2人 ※保育ボランティア 1人
8	平成26年11月29日(土) 13:00-15:40	2.5時間	ホテル・ウイングインターナショナル目黒会議室	12人	ミャンマー(8人)ガーナ(2人)ギニア(1人)エチオピア(1人)	I-02-(05) 安全を守る/災害に備える ●「防災センターへ行きます」 ●「みんなで出かけます」	【語彙／動詞】開ける 閉める 出かける 押す 回す 消す 【目標項目】身近な象形文字を学ぶ、バス旅行についてQAをする、災害のことばを学ぶ、来週見学する防災センターでの流れを学ぶ 【文字】A:象形文字漢字 B:① 象形文字漢字	ディラン恵子	羽毛田恵美 ※ボランティア 0人 ※保育ボランティア 1人
9	平成26年12月6日(土) 13:50-16:20	2.5時間	本所防災館	7人	ミャンマー(5人)ギニア(1人)エチオピア(1人)	I-02-(05) 安全を守る/災害に備える IV-07-(10) 公共交通機関を利用する/電車を利用する ●本所防災館訪問 ●「避難訓練をします」 ●「みんなで出かけます」	【語彙】防災のことば『火事だ』『おかしも』『煙』『AED』『消火器』 【目標項目】約束の時間に約束の場所に集まる、行けない場合は連絡する、防災センターの方の指導に従って火事、地震から身を守る方法を学ぶ、応急処置の方法を学ぶ 【文字】なし	ディラン恵子	羽毛田恵美 ※通訳 服部倫子 ラッシー ロイ サン ※その他通訳ボランティア2人
10	平成26年12月13日(土) 13:00-15:40	2.5時間	ホテル・ウイングインターナショナル目黒会議室	8人	ミャンマー(7人)ギニア(1人)	Ⅲ-05 物品購入・サービスを利用する ●「日本のお正月を楽しみます」	【語彙】お正月のことば(「鏡餅」「しめ飾り」「大晦日」「おせち料理」「年賀状」「初詣」「お餅」「お雑煮」) 【語彙／動詞】(電話を)かける 教える 考える 【目標項目】日本のお正月のストーリーを読んで、日本人のお正月の過ごし方を知る、文具を買って、領収書をもたらしてくる、年賀状を書いてみる ★今月の目標である災害などの知識、自分の身の守り方などの学習の振り返りをする 【文字】A:ひらがな、カタカナ、漢字、混じり文章ディクテーション B: ひらがな復習	ディラン恵子	羽毛田恵美 ※ボランティア 1人 ※保育ボランティア 1人
11	平成26年12月20日(土) 13:00-15:40	2.5時間	御徒町方面	11人	ミャンマー(7人)ガーナ(2人)エジプト(1人)ギニア(1人)	Ⅲ-05 物品購入・サービスを利用する IV-07-(10) 公共交通機関を利用する/電車を利用する IX-20 余暇を楽しむ ●「アメ横で買い物を楽しみます」 ●「上野公園を散歩します」	【語彙】年末の挨拶(「よいお年を」「ゲーム」「すうどく」「まちがよい探し」) 【語彙／動詞】なし 【目標項目】約束の時間に約束の場所に行く、食材の値段を聞く、領収書をもたらって買い物する、公園の散策とおしゃべりを楽しむ、余暇の過ごし方を知る 【文字】なし	ディラン恵子	羽毛田恵美 ※ボランティア 2人

12	平成27年1月 10日(土) 13:00-15:40	2.5時間	ホテル・ウイングイン ターナショナル目黒 会議室	8人	ミャンマー(5 人)ガーナ (2人)ギニア (1人) ●「お正月らしく過 ごします」 ●「日本の人のお 正月の過ごし方 についてインタビュー します」	【語彙】料理のことば(「煮る」「炒める」「混ぜる」「こね る」など) 【語彙／動詞】曲がる 渡る 入る 要る 取る 作る 【目標項目】新年のあいさつができる、新年の目標、 希望が話せる、料理のことばがわかる、得意料理の 作り方や材料が言える 【文字】A:象形文字漢字 B:ひらがな、カタカナの読み とディクテーション	ディラン恵子	羽毛田恵美 ※ボランティア 3 人
13	平成27年1月 17日(土) 13:00-15:40	2.5時間	きゅりあん	6人	ミャンマー(5 人)ギニア(1 人) Ⅲ-05 物品購入・サービ スを利用する Ⅳ-07-(10) 公共交通機関を利 用する/電車を利用 する Ⅶ-14-(31) 人と付き合う Ⅷ-15-(34) 地域・社会のルー ル・マナーを守る/ 住民としてのマ ナーを守る ●「国の料理を作 ります」	【語彙】料理のことば(「揚げる」「煮る」「こねる」「炒め る」「ごはんにかける」など)ゴミのことば(「生ごみ」「分 けます」など) 【語彙／動詞】なし 【目標項目】約束の時間に約束の場所に集まる、買い 物ができて領収書がもらえる、自国の料理を日本人 といっしょに作って、作り方を教える、ごみを分けて捨 てることができる、会話を楽しみながら食事ができる 【文字】なし	ディラン恵子	羽毛田恵美 ※ボランティア 3 人
14	平成27年1月 24日(土) 13:00-15:40	2.5時間	ホテル・ウイングイン ターナショナル目黒 会議室	10人	ミャンマー(7 人)ガーナ (2人)エジ プト(1人)ギ ニア(1人) Ⅶ-14-(31) 人と付き合う Ⅷ-15-(34) 地域・社会のルー ル・マナーを守る/ 住民としてのマ ナーを守る ●「ゴミをちゃんと すてます」	【語彙】ごみリサイクルのことば(「洗います」「しぼりま す」「はがします」「つつみます」など) 【語彙／動詞】置く、聞く、書く、働く、脱ぐ 【目標項目】得意料理のレシピが書ける、ごみの捨て 方について質問ができる、リサイクルの方法がわかる 【文字】A: 漢字の部首の意味と身近な漢字の読み B: ひらがなとカタカナの名詞の読みとディクテーション	ディラン恵子	羽毛田恵美 ※ボランティア 1 人
15	平成27年1月 31日(土) 14:00-16:40	2.5時間	認定NPO法人難民 を助ける会会議ス ペース	9人	ミャンマー(8 人)ガーナ (1人)ギニア (1人)エチオ ピア(1人) Ⅷ-15-(34) 地域・社会のルー ル・マナーを守る/ 住民としてのマ ナーを守る ●「文法を勉強し ます」 ●これまでの復習 ●ヒアリング(英 語・ビルマ語に分 かれて各1時間)	【語彙】なし 【語彙／動詞】なし 【目標項目】ヒアリングで自分の学習を振り返る、ヒア リングで自分の意見が言える、文法事項を学ぶ ★ごみ、料理の学習を振り返る ★文法 (ゆっくりグループ)～たいです (できるグループ)～たいです ～たことがあります ～ ないでください 【文字】なし	ディラン恵子	羽毛田恵美 ※ボランティア 1 人 ※ヒアリング通訳 松信章子(英語) マリア マン チン カイ(ビルマ語)
16	平成27年2月 7日(土) 13:00-15:40	2.5時間	ホテル・ウイングイン ターナショナル目黒 会議室	13人	ミャンマー(8 人)ガーナ (2人)エジ プト(1人)ギ ニア(1人)エチ オピア(1人) Ⅶ-14 他者との関係を円 滑にする ●「文法を勉強し ます」 ●「節分を楽しみ ます」 ●ヒアリング(仏語 1時間)	【語彙】節分のことば(「豆まき」「福」「鬼」) 【語彙／動詞】急ぐ する 来る 持つてくる 【目標項目】シャドーイングの活用表から「て形」を学 習して「て形」を使う文法項目を学ぶ、節分についてわ かる、職場で困っている日本語をボランティアさんに 尋ねる。★文法事項 (ゆっくりグループ)～てもいいですか (できるグループ)～てください ～ています ～てもい いですか 【文字】A:漢字の部首の意味と身近な漢字の読み B: ひらがなとカタカナの名詞の読みとディクテーション (飲み物)	ディラン恵子	羽毛田恵美 ※ボランティア 2 人 ※ヒアリング通訳 柴田都志子(仏 語)
17	平成27年2月 14日(土) 13:00-15:40	2.5時間	ホテル・ウイングイン ターナショナル目黒 会議室	11人	ミャンマー(7 人)ガーナ (2人)ギニア (1人)エチオ ピア(1人) ●「バレンタイン デーを楽しみます」 ●修了スピーチ ●これまでの復習	【語彙】バレンタインデー、友チョコ、スピーチ 【語彙／動詞】見る 覚える 忘れる 【目標項目】自分の国と日本を比べて違いを考えて、 スピーチを書いてみる、シャドーイングの動詞の意 義を確認する、文法事項の復習 【文字】A: 漢字の部首の意味と身近な漢字の読み B: ひらがなとカタカナの名詞の読みとディクテーション (食べ物)	ディラン恵子	羽毛田恵美 ※ボランティア 2 人
18	平成27年2月 21日(土) 13:00-15:40	2.5時間	ホテル・ウイングイン ターナショナル目黒 会議室	8人	ミャンマー(5 人)ガーナ (2人)ギニア (1人) ●修了スピーチ ●「文法を勉強し ます」 ●「発表会の準備 をします」準備	【語彙】招待状のことば、折り紙のことば(「色」「合 わせる」「折る」「切る」「中に入れる」「シール」「貼る」) 【語彙／動詞】習う 思う 言う 貸す 直す 返す 【目標項目】「I～と思います」の文型を使って意見を言 うことができる、スピーチを練習する、スピーチ発表会 の案内状を作る、ハンドベル演奏の練習をする 【文字】A:身近な漢字の意味のヒントを知る(「所」「中」 「禁」) B: ひらがなとカタカナの名詞の読みとディク テーション(家の中の物)	ディラン恵子	羽毛田恵美 ※ボランティア 2 人

19	平成27年2月 28日(土) 13:00-15:40	2.5時 間	ホテル・ウイングイン ターナショナル目黒 会議室	8人	ミャンマー(5 人)ガーナ (2人)ギニア (1人) ●発表会準備 「スピーチ、歌、ハ ンドベルをがんば ります」 ●「疑問詞」を使 えるようになります」	1-Q2-(05) 安全を守る/災害 に備え、対応する 【語彙】疑問詞(「いつ」「どこ」「何」「誰」「どうして」「どう やって」) 【語彙/動詞】買う 払う 使う 【目標項目】疑問詞を使って質問することができる、ス ピーチ発表会の練習をする、地震の時の対処方法の 復習をする、 【文字】既習の漢字を使った漢字文が読める、ひらが なとカタカナの名詞の読みとディクテーション(電気製 品)	ディラン恵子	羽毛田恵美 ※ボランティア 2 人
20	平成27年3月 7日(土) 13:00-15:40	2.5時 間	ホテル・ウイングイン ターナショナル目黒 会議室	9人	ミャンマー(6 人)ガーナ (2人)ギニア (1人) ●発表会実施 「スピーチ、歌、ハ ンドベルをお客さ んと一緒に楽しみ ます」	VII-14 他者との関係を円 滑にする 【語彙/動詞】なし 【目標項目】スピーチができる、日本の歌が歌える、ハ ンドベル演奏ができる、お客様を歓迎することができ る、ボランティアさんに感謝のカードが書ける 【文字】共通:歌詞が読める	ディラン恵子	羽毛田恵美 ※ボランティア 6 人 ※紹介者 2人
21	平成27年3月 7日(土) 13:00-15:40	2.5時間	ホテル・ウイングイン ターナショナル目黒 会議室	9人	ミャンマー(6 人)ガーナ (2人)ギニア (1人) ●「修了式」に出席 します」 ●「アンケートに答 えます」	VII-14 他者との関係を円 滑にする 【語彙】修了式のことば(「修了証書」)、ひとこと会話 【語彙/動詞】疲れる やめる 遊ぶ 呼ぶ 死ぬ 【目標項目】日本人と短い「ひとこと」でできる会話を学 ぶ、式典に参加できる、さばうとに感謝の気持ちを伝 えることができる、メニューを読んで注文ができる 【文字】共通:メニューが読める	ディラン恵子	羽毛田恵美 ※ボランティア 2 人 ※高橋運営委員 長 長島みどり(スタッ フ)

(8) 受講者の募集方法

- ・さばうと21ホームページ上での案内 <http://support21.or.jp/news/2014/09/12608/>
- ・さばうと21学習支援室内での案内
- ・外部の難民関連団体および関係者あての電子メールでの案内
- ・ミャンマー料理のレストランや店舗での案内(チラシ貼り付け等)

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)

第5回目 授業日時 11月8日(土) 13:00～15:40

【指導者】ディラン恵子 【指導補助者】羽毛田恵美

【参加者】10名(うち新参加者2名)

【参加ボランティア】杉本、菊池

<①基礎語彙> 病院のことば(受付、診察、薬、症状の言い方、体の部位の名前、医者 of 指示のことば)

<②基礎動詞> 持つ 立つ 待つ

<履修単元> I 健康・安全に暮らす-01健康を保つ(01)医療機関で治療を受ける

<目標>

1. 病院での簡単な流れを理解する
2. 簡単な症状が言える
3. 医者の指示がわかる
4. ひらがなを学ぶ

<内容>

1. 文字学習(進度別で3つに分かれて学習)

A・『あ』～『ほ』の復習 『ま行』の読み書き練習 文字ディクテーション

B・ひらがな清音の読みとのディクテーション 『拗音』の読みと書き練習

C・残りのグループ…拗音、促音、長音、カラカナのことばディクテーション

2. 動詞シャドーイング 新しい動詞の紹介(持つ、立つ、待つ)『ちょっと待ってください。』導入
3. 『語彙集』を使って、体の部位の名前を確認。『～が痛いです』と体の部位を使って練習。
4. 『病院に行きます』・・・ホワイトボードに『病院』『受付』『診察』『会計』の絵をはって、病院の流れを簡単に説明。

受付での会話と診察室での会話を導入してからグループに分かれ、ボランティアといっしょに会話の練習。

5. 『医者 の 指示』シートを渡し、グループに分かれて、ボランティアといっしょに絵と指示の言葉を合わせるクイズに取り組む。

指示が理解できるようになってから、全体で練習。指導者が『医者 の 指示』を読んで、学習者に指示に従って動作をしてもらう。

6. 既習の動詞を使って『きのう、何を～ましたか？』の過去形でのQAを練習。

7. 宿題の説明

『町で見かける漢字』シートを使って、『この漢字は何と読みますか？』という質問をしてくる宿題。

上記宿題だと難易度が高すぎる受講者は『誕生日は何月何日ですか？』という質問をしてくる宿題。

<所感>

★遅れ気味の1名には事前に1時間補習。授業前に「予習」したことにより、クラスでも答えることができた。皆の大きな拍手を受けてとてもうれしそうだった。本当にがんばっている。

★できる学習者も拗音、促音、長音のことばのディクテーションとカタカナのことばのディクテーションは小さい間違いがたくさんあった。

★『医者 の 指示』はちょっと難しかったが、グループに分かれて、ボランティアといっしょに絵を見ながら、1つずつ意味を確認しながらクイズの答えを書き入れ、最後には皆理解し、正しい動作をしていたので、ちょっと驚くと共にうれしく思った。

■第18回目 授業日:2月21日(土)13:00-15:40

【指導者】ディラン恵子 【指導補助者】羽毛田恵美

【参加者】8名

【参加ボランティア】 渡部、植木

<① 基礎語彙>招待状、スピーチ発表会、形容詞復習(おいしい、暑い、寒い、静か、にぎやか、高い、安い、おもしろい)

<② 基礎動詞>習います 思います 言います 貸します 直します 返します

<履修单元>

<目標>

1. (ゆっくりグループ) ひらがな、カタカナの名詞の読み書きができる
2. (できるグループ) 町、駅で見かける漢字が読める
3. 文型(～と思います)で意見が言える
4. スピーチを練習する
5. スピーチ発表会の招待状を作る

<内容>

1. 文字学習(進度別で2グループに分かれて学習)

A(ゆっくりグループ)・・・『名詞300』を使って家の中の名詞(ひらがな、カタカナ混じり)を読んだり、ディクテーションしたりした。

B(できるグループ)・・・先週に引き続き、駅や町で見かける漢字のカードを復習し、さらに新しい次の漢字カードもボランティアさんといっしょに読んだ。むずかしい漢字だったので、「読めて、だいたいの意味が理解できればよい」こととした。

2. 基礎語彙(動詞)シャドーイング・・・動詞の活用を見ながらシャドーイング。

今日の動詞の中から『～と思います』を取り出し、形容詞絵カードを見ながら形容詞を復習して『日本の果物はどうですか?』『高いと思います』などで口頭練習。授業前に補講を受けていた学習者がよいフレーズを出してくれたため、導入はスムーズだった。(※な形容詞も『だ』にこだわらずに『にぎやかと思います』などでよいことにした。

3. 3月7日のスピーチ発表会について確認し、いろいろなことを決定した。

司会者はDさん。歌はKさんの提案で『花は咲く』、その後に皆で『蛍の光』のハンドベル演奏、それから簡単な食事会(ミャンマーの学習者がココナツそばを作ってくれてるので、他の学習者たちがお茶とココナツそばをお客様にお出しする係。)

4. スピーチ発表会の招待状書き。折り紙でバスケットを作り、招待状の中に入れて完成させた。楽しそうに招待状を作っていました。

5. 前に出てひとりずつスピーチを読んでもらった。まだまだの人、上手な人、テーマがずれていて、もう一度考えてくる人などまだ様々だが、発表前にもう1回クラスがあるので、いいスピーチ発表会になるだろう。

6. 宿題の確認

A(ゆっくりグループ)はカタカナ宿題、B(できるグループ)は今日学習した漢字の読みの宿題を渡した。スピーチの練習も宿題。

<所感>

★スピーチ発表会に向けて皆張り切ってきている。

<特記事項>

★Aさんのお子さんが先週けがをしたそう。救急車を呼びたかったが、日本語で何と言えばいいかわからなかった、救急車の呼び方を教えてとリクエストがあった。来週、教材を準備する予定だが、誰かすぐに助けを求められる人が近くにいることの方が大切だと思う。近くの人をお願いする言い方なども練習する予定。その他の対策も一緒に考えたい。



(10) 目標の達成状況・成果

●①第16回に実施した「中間ヒアリング(ビルマ語、英語、フランス語の通訳あり)での聞き取り」、②最終回実施の「受講者振り返りシートでの自己評価」(9名提出)、③最終回に実施した「アンケート(ビルマ語、英語、フランス語の通訳あり・10名提出)」結果、④指導者、指導補助者、コーディネーターの観察により目標の達成状況・成果を検証する。

まず、本講座の目的としてあげた2点について述べる

1 生活者としての外国人である受講者(難民)が日常生活において最低限必要とされる生活上の行為を日本語で行える(または、行えるという意識がもてる)ようになること。あわせて、日本社会の一員としての権利や義務を理解した上で、各人が日本社会の一員としての意識を高め、日々の生活の豊かさを求める姿勢がもてるようになること

この点は、十分に達成したと判断する。

日本語教室開始当初、ほとんど日本語でのコミュニケーションをとることができなかった受講者が、終了時には自信をもってスピーチに挑み、発表会で与えられたそれぞれの役割(司会や歌のリード)をこなしていた。「アンケート」の「質問7 あなたの日本語力は伸びましたか」に対して、回答者全員が肯定的に回答し、「職場の日本人と以前よりもっとコミュニケーションをとれるようになった」「仕事場、病院、役所等に行った時、以前より日本語を話すことができるようになった」「日本語をもっと話す、読む、書くことができるようになった」「日本人が日本語で話す時に分かるようになった」と具体的に自身の日本語力の伸びを記している。

2 ボランティアで参加する日本人住民が、教室での活動を通じて、外国人住民への理解を深め、コミュニケーション力を向上させ、教室での学びを日々の生活に生かして、外国人住民と共に暮らす日常を楽しめるようになること

この点についても、十分に達成した。参加を続けたボランティアの成長にもめざましいものがあった。共に学びを深める中で、当初は指導者やアシスタントの「お手伝い」の立場で関わっていたボランティアが、徐々に参加者一人一人の個性や考え方を理解し、教室活動全体を客観的に把握できるようになり、日本語学習の「パートナー」として参加するようになっていった。

今回、上記の目的に加え、「地域とつながる勇気をもとう!」を参加者共通の目標として掲げた。この点についても目標は十分に達成された。「アンケート」の中には、「日本の行事や文化などについてもっと知ることができた」という感想が複数見られた。日本社会に対して今まで以上に関心を持ち、親近感を抱いていることがうかがわれる。また、「日本人や他の国のの人々と日本語でコミュニケーションがとれるようになった」という記述も見られた。幅狭いコミュニティに暮らす難民の方々にとっては、日本人か他国の人かは関係なく、「日本語」により、「より多くの人」とつながれることが大事だということに改めて気付かされる。

(11) 改善点について

今回は「イベント等の体験」を数週間の行動目標として定め、その達成のために必要な知識や日本語、生活上の行為を学習項目として設定した。これらは比較的、目に見えやすい目標であったが、「目標とそこに至る学習項目」が事前に参加者全員で共有されていれば、日々の一つの学習に納得して取り組むことができ、学習効果がよりあがったのではないかと考えられる。

また、「レベル差にどう対処するか」「学習者にとってより有益な振り返りシートはどのようなものか」「レベル差のあるクラス活動をどのように実施するか」「周りの人とつながるきっかけとなるような宿題はどのようなものか」などが課題としてあげられる。

また、「体験」を小目標として日々の学習(指導)項目を設定するという今年度のような進め方を実施する場合、依然として学習者から要望の多い「文法の勉強」に、どのように応えていけるのかも再度検討が必要である。

(1) 講座名称

生活力向上のためのワークショップ

(2) 目的・目標

- ・定住外国人が健康的で心豊かな生活を送るために必要とされる知識や考え方を学ぶこと
- ・日本語力の向上だけでは対処できない事態にも備えることができるようになること

(3) 対象者 東京近郊に在住する難民、ボランティア(主に日本人)

(4) 開催時間数(回数) 17.5 時間 (全10回)

※1.5時間/回(全6回) + 2時間/回(全3回) + 2.5 時間/回(全1回)

(5) 使用した教材・リソース

- ・担当指導者作成のオリジナル教材

(6) 受講者の総数 89人 (2/28日現在)

(出身・国籍別内訳 ミャンマー65人 日本19人 その他5人)

(7) ワークショップの具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	補助者名
1	平成26年 7月19日 11:00-12:30	1.5時間	認定NPO法人難民を助ける会会議スペース	21名	ミャンマー(14名) 日本(6名) その他の国籍(1名)	VIII-15 地域・社会のルール・マナーを守る ／住民としてのマナーを守る タイトル: ゴミの出し方	1 品川区のゴミの出し方についての理解 2 ゴミの出し方(Q&A) 3 3R(Reduce, Recycle, Reuse)について	矢崎 理恵	(ビルマ語通訳) リア チン ラム マン
2	平成26年 8月16日 11:00-12:30	1.5時間	認定NPO法人難民を助ける会会議スペース	23名	ミャンマー(16名) 日本(7名)	I-02 安全を守る／災害に備え、対応する タイトル: 防災	1 首都直下型地震について 2 地震の怖さについて正しく理解する 3 地震が起こる前の準備について(ディスカッション) 4 地震が起きた時の行動について(ディスカッション) 5 振り返り&まとめ	高木 恵美子	(ビルマ語通訳) リア チン ラム マン
3	平成26年 9月20日 11:00-13:00	2時間	認定NPO法人難民を助ける会会議スペース	27名	ミャンマー(19名) 日本(7名) その他の国籍(1名)	I-01 健康を保つ／健康に気を付ける タイトル: 食育	1 一日の献立を書きだしてみよう(アクティビティ) 2 バランスの良い食事について 3 一日の摂取量目安について 4 自分の食生活を見直してみよう、健康的な献立をつくってみよう(アクティビティ) 5 運動の大切さについて 6 質問タイム(全体・個別)	廣井 英子 (管理栄養士)	(ビルマ語通訳) ホワ グム ラト ソ
4	平成26年 10月25日 11:00-13:00	2時間	認定NPO法人難民を助ける会会議スペース	17名	ミャンマー(13名) 日本(4名)	VIII-15 地域・社会のルール・マナーを守る ／住民としての手続をする タイトル: 保険とお金	1 年金制度について 2 医療制度について 3 子どもの教育費について、賢い貯め方 4 質問タイム(全体・個別)	羽場 真美 (ファイナンシャルプランナー)	(ビルマ語通訳) ラッシーロイサン
5	平成26年 11月22日 11:00-13:30	2.5時間	別の会議スペース @株式会社 KIRIAGERU	16名	ミャンマー(15名) 日本(1名)	I-01 健康を保つ／健康に気を付ける タイトル: 女性のための健康	1 女性の生殖器や乳房の病気についての理解 2 検診のすすめ 3 セルフチェックの方法 4 更年期障害についての理解	上村 いずみ (助産師、看護師)	(ビルマ語通訳) マリア マン チン カイ
6	平成26年 12月6日 11:00-12:30	1.5時間	認定NPO法人難民を助ける会会議スペース	21名	ミャンマー(10名) 日本(7名) その他の国籍(4名)	I-02 安全を守る／災害に備え、対応する タイトル: 応急手当て	1 応急処置が必要となる状況、その必要性 2 胸骨圧迫心臓マッサージ、人工呼吸の方法(実技) 3 AEDについて、使用方法(実技) 4 質問タイム(全体・個別)	北郷 善二 (品川消防署救急係)	(ビルマ語通訳) ホワ グム ラト ソ

7	平成27年 1月17日 11:00-13:00	2時間	認定NPO法人難民 を助ける会会議ス ペース	15名	ミャンマー (11名) 日本(3名) その他の国 籍(1名)	I-02 安全を守る／事故 に備え、対応する タイトル: 自転車の安全な乗 り方	1 正しい自転車の乗り方、交通標識についての理解 2 自転車事故に備えた保険について 3 駅で見かける標識	※スキルアップ講座 受講者による実践(～ 12:30) 奥泉 充(警視庁大崎 警察署 交通課 交 通総務係)	(ビルマ語通訳) マキン サン サン アウン
8	平成27年 1月31日 11:00-12:30	1.5時 間	認定NPO法人難民 を助ける会会議ス ペース	12名	ミャンマー (11名) 日本(1名)	I-01 健康を保つ／健康 に気を付ける タイトル: 美容と身だしなみ	1 正しいスキンケアの方法 2 化粧水、乳液クリームの塗り方(実技) 3 TPOに応じた身だしなみについて	※スキルアップ講座 受講者による実践 須藤 泰子 (素肌スペシャリスト)	(ビルマ語通訳) リア チン ラム マン
9	平成27年 2月14日 11:00-12:30	1.5時 間	別の会議スペース @株式会社 KIRIAGERU	10名	ミャンマー (10名)	VII-32 他者との関係を円 滑にする／人と付 き合う タイトル: 面接を受けよう	1 面接を受けるときのマナー 2 面接を受けるときのルール 3 本番を想定した練習	※スキルアップ講座 受講者による実践	(ビルマ語通訳) リア チン ラム マン
10	平成27年 2月28日 11:00-12:30	1.5時 間	認定NPO法人難民 を助ける会会議ス ペース	17名	ミャンマー (14名) 日本(1名) その他の国 籍(2名)	IX-43 学習する／日本に ついて理解する タイトル: お弁当	1 日本のお弁当文化 2 調理実習(おにぎり、卵焼き、タコウィンナー) 3 栄養について	※スキルアップ講座 受講者による実践	(ビルマ語通訳) リア チン ラム マン

(8) 受講者の募集方法

- ・さぼうと21学習支援室内でのチラシ・口頭による告知
- ・初級日本語講座受講者へのチラシ・口頭による告知
- ・外部の難民支援団体への電子メールによる告知

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)

■ 第4回ワークショップ 2014年10月25日(土) 11:00-13:00 認定NPO法人 難民を助ける会会議スペースにて

【テーマ】保険とお金

【担 当】講師：羽場 真美(ワーカーズ・コレクティブ生活クラブFPの会) ビルマ語通訳：ラッシーロイサン

【参加者】17名(ミャンマー13名 日本4名)

【講座開催にあたっての背景】

・外国人住民の日本在住歴が長くなっていることから、ご家族またご自身の高齢化に伴い年金に関する相談が増えてきた。健康保険には加入しているが年金には加入していない方も多く、将来を心配する声をよく聞くようになった。

・学齢期を迎える子どもたちを持つ親が増え、教育費に関する相談が増えてきた。

【内 容】

●年金制度

- ・年金制度について、その役割
- ・受け取るための条件

●医療制度

- ・健康保険制度について、その役割
- ・高額療養費制度の説明

●教育費

- ・教育にかかるお金について(小学校、中学校、高校、大学)
- ・教育資金の貯め方について(一例として、学資保険についての説明)



■ 第5回ワークショップ 2014年11月22日(土) 11:00-13:00 別の会議スペース @株式会社KIRIAGERU

【テーマ】女性の健康と病気

【担当】講師：上村 いずみ(助産師、看護師) ビルマ語通訳：マリヤマンチンカイ

【参加者】16名(ミャンマー15名 日本1名) ※女性のみ参加

【講座開催にあたっての背景】

・昨年度の事業において、健康をテーマに取り上げたワークショップが大好評であったが、女性を対象とした回を設けて欲しいという声も出ていた。近年、社会的にも女性特有の病気に関する関心が高まっていることもあり、開催するに至った。

【内 容】

●女性に特有の生殖器や乳房の病気

・子宮がん、卵巣がん、乳がんについて

・子宮と卵巣の病気、気づきのためのチェックリスト

●予防のために、検診のすすめ

・婦人科検診について、ネットでの検索の仕方

・乳がんの自己検診について

●更年期と更年期障害

・症状について



(10) 目標の達成状況・成果

●各回のワークショップ後に、参加者に対して行ったアンケートならびにヒアリングの結果、講師とコーディネーターの観察により達成状況・成果を判断する。

本講座の目的としてあげた2点について述べる。

1. 定住外国人が健康的で心豊かな生活を送るために必要とされる知識や考え方を学ぶこと

「健康的で」というキーワードに対しては、前年度好評だった健康ワークショップを継続し、“食育”や“女性の健康”というテーマに特化したワークショップを開催した。正確な情報を適切に伝えるために、両回とも専門家をお招きし実施した。“食育”については、栄養バランスの良い食事を摂取することについて、重要性を改めて認識した方、初めて知った方があり、自身の食生活を見直す機会となったようだ。大人だけでなく子どもたちの受講も促したことで、子どもたちの関心も高めることができた。“女性の健康”については、婦人科系の病気に対する知識を高め、公的な検診の利用、自己検診の方法についての情報提供をし、病気の早期発見や予防につながっていくと考える。

「心豊かな」というキーワードに対しては、“美容と身だしなみ”のワークショップを実施した。健やかで若々しい肌の秘訣を学ぶ受講者の生き活きとした顔が印象的である。「どのように洗顔をするか、どんなものを使うのかが分かった」、「今日からやります」、「キレイになりたい」といったアンケート結果からも、日常生活の中で継続して実践しやすい内容であり、自己研鑽や今後の自信に繋がるものであった様子が見てとれた。日々の生活が少し楽しくなるような心の豊かさに繋がっていくものになったと評価している。ただし、本キーワードにて実施したワークショップは上記1回だけであったため、今後関連するテーマを探し、幅を広げていく必要がある。

2. 日本語力の向上だけでは対処できない事態にも備えることができるようになること

“防災”をテーマとした回では、受講者の大半が「とても役に立った」と回答した。受講者の多くが地震のない国の出身であり、知識も地震への備えも不足していたため、今回見聞きした情報は非常に有益であったと評価する。

また、家族や友人、見知らぬ人が心配停止状態で倒れた場合を想定し、“(AEDを使った)応急手当”のワークショップを実施した。アンケートには、特に印象に残っているものとして「AEDの使い方」と回答する外国人住民・日本人が複数名おり、使い方を学ぶことができ「非常に役立った」との声が多かった。

緊急事態になった時、周りに知らせるための日本語や見聞きする日本語を学ぶとともに、通訳を介して母語で説明を受けることで正しい理解の促進ができたと判断する。今後も継続的にこのようなテーマを取り上げ、防災意識、知識を高めることを目指していきたい。

設定した上記目標以外にも、今回の成果として、日本人側の意識変化への働きかけを上げることができる。ワークショップ開催にあたって、様々な業界で活躍する専門家に講師として参加いただいた。複数の方からは「参加したことで外国人住民に対する意識が変わった」、「外国人住民に分かりやすく伝える方法について考える機会となり、良い経験になった」との感想があった。講師の方々が“やさしい日本語”に対する関心を高めたこと、その意識づけに繋がった点で非常に有益であったと考える。

(11) 改善点について

今回のワークショップでは「生活力向上」を合言葉に、多岐に亘るテーマを取り上げてきた。ワークショップを実施していく中で、特に下記3点の改善点に注目し、今後に活用していきたいと考える。

1. ワークショップ計画段階からの外国人住民の参加

ワークショップ開催にあたっては、受講対象者をよく知るコーディネーター、スタッフが中心となり計画した。日本で生活する上で知っておくべき情報を中心に、命に関わるものや安全・安心、お金、健康に関連するテーマを取り上げた。これらは大変好評であったが、心の豊かさに繋がるテーマ(今回の場合は、第8回「美容と身だしなみ」)が少なかったことから偏りが見られた。上記振り返りを活かし、今後はワークショップ計画段階から当事者である外国人住民とともに検討することで、関心が何・どこにあるのかを知り、よりニーズの高いテーマを取り上げることができると考える。

2. ワークショップ開催情報の周知徹底

テーマ決めや専門家の手配に時間を要したこともあり、日程が間近に迫ってから開催をお知らせすることが複数回あった。そのため情報が行き届いておらず、参加したかったが知らなかった、という声が聞かれた。以降は、ワークショップのテーマが書かれた年間スケジュールを事前に掲示板に貼り、お知らせレターを渡すなど、受講対象者が情報を入手しやすい工夫をしていきたい。

3. 多言語での通訳を必要とするワークショップの検討

受講者の多くはビルマ語を母語とする人々だったため、1言語のみの通訳を配備することで実施できた。しかし今後、他言語を母語とする受講者が参加する場合、多言語通訳を配備している他団体とのネットワークづくり等をしていきたい。加えて、ワークショップの開催形態については、通訳数名が介在するワークショップとするのか、言語毎にワークショップの実施日を別にするのかといったことも検討する必要がある。

6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

(1) 講座名称

日本語教室ボランティアのためのスキルアップ講座

(2) 目的・目標

「パワーアップ研修」の目標は、参加者の意識を「学ぶヒト」から「実践するヒト」に変えていくことである。地域日本語教室で活動が続ける参加者が、各人の活動の場で、より有効な活動ができるような「スキル」、「意識」をもてるようになることをねらいとしている。

「スキルアップ講座」の目的は、日本語学習とは何かを問い直すこと、そして、学習者はもちろん、共に支援するボランティア仲間、さらには地域や関連機関と連携していくことの重要性や方策を体感してもらうことである。「体験・共有・協働」をキーワードに、以下の3つの活動を展開した。

・講座(『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について』の教室活動の方法例として挙げられているタスク・エクササイズから抽出)

・日本語学校の見学
・ワークショップの実践

(3) 対象者

地域日本語教室でボランティアとして活動している人、または活動に関心がある人

(4) 開催時間数(回数) 40 時間 (全 8 回)

(5) 使用した教材・リソース

・講師作成のオリジナル教材
・『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案活用のためのガイドブック』(文化審議会国語分科会)
・『「生活者としての外国人」に対する日本語教育における日本語能力評価について』(文化審議会国語分科会)
・『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について』(文化審議会国語分科会)

(6) 受講者の総数 21 人

出身・国籍別内訳

中国	人	インドネシア	人	※他の国籍の場合は以下に国籍と人数を記載してください。
韓国	人	タイ	人	
ブラジル	人	ペルー	人	
ベトナム	人	フィリピン	人	
ネパール	人	日本	21 人	

(7) 養成・研修の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	補助者名
1 (1)	平成26年 9月27日 13:10-15:40	2.5時間	TKPスター貸会議室 御茶ノ水駅前 (東京都千代田区神 田駿河台2-1-18常 和御茶ノ水ビル2階)	20人	日本(20)	講座1 「ワークショップ実 践」を見て考える ・ワークショップを 計画する その1	■講座の説明 ■自己紹介★タスクを使って ■日本語教室見学の案内 ■ワークショップを計画する ①ワークショップとは何か ②ワークショップのイメージ作り ③グループ決めとテーマ選定	なし	奥原淳子 夢沼恵子 長崎清美
2 (2)	平成26年 10月18日 13:10-15:40	2.5時間	TKPスター貸会議室 御茶ノ水駅前	16人	日本(16)	講座2 ・「タスク」を学ぶ その1 ・ワークショップを 計画する その2	■タスクを学ぶ ①グループ作り★ラインナップ ②自己紹介★ウィンドウズ★うそ発見 ③タスクとは ④ロールプレイ ■ワークショップ テーマと内容を決める(グループ活動)	奥原淳子(13:10-14:40)	奥原淳子 夢沼恵子 長崎清美 矢崎理恵
3 (3)	平成26年 11月8日 13:10-15:40	2.5時間	TKPスター貸会議室 御茶ノ水駅前	18人	日本(18)	講座3 ・「教材作成」を学 ぶ ・ワークショップを 計画する その3	■教材作成を学ぶ ①ボランティア教室から生まれた教材 ②さぼうと21の無料公開教材 ③お役立ちサイト ④教材を作る前に・教材を作りとして ⑤ところで実際のところ…さて、どうする？ ■ワークショップ 内容の検討(グループ活動) 各グループによる進捗状況の報告	矢崎理恵(13:10-14:40)	夢沼恵子 長崎清美 矢崎理恵

4 (4)	平成26年 11月29日 13:10-15:40	2.5時間	TKPスター貸会議室 御茶ノ水駅前	17人	日本(17)	講座4 ・「漢字の学び方」 を学ぶ ・ワークショップを 計画する その4	■漢字の学び方を学ぶ ①どうして漢字が大切なのか？ ②どうして漢字が難しいのか？ ③学習者にとって必要な漢字は？ ④漢字は書けるより正しく読めることが大切！ ⑤漢字はパーツからできている！ ⑥漢字が好きになるには？ ⑦タスク ■ワークショップ 内容の検討(グループ活動)	夢沼憲子(13:10-14:40)	奥原淳子 夢沼憲子 長崎清美
5 (5)	平成26年 12月13日 13:10-15:40	2.5時間	TKPスター貸会議室 御茶ノ水駅前	18人	日本(18)	講座5 ・「タスク」を学ぶ その2 ・日本語教室見学の 報告 ・ワークショップを 計画する その5	■タスクを学ぶ ①ランキング ②シャドーイング ■日本語教室見学の報告 ★ワールド・カフェ方式を使って情報共有 ■ワークショップ 内容の検討(グループ活動)	長崎清美(13:10-14:10)	奥原淳子 夢沼憲子 長崎清美
6・7 (6)	平成27年 1月15日 18:00-20:00	2時間	認定NPO法人難民 を助ける会会議ス ペース	4人	日本(4)	1月17日ワーク ショップ実践の事 前準備	・ワークショップ実践の内容の確認 ・リハール	なし	矢崎理恵
6・7 (7)	平成27年 1月17日 10:00-11:00	1時間	認定NPO法人難民 を助ける会会議ス ペース	4人	日本(4)	ワークショップ実践 の当日準備	・ワークショップ実践のための最終準備 ・通訳者/講師との打合せ	なし	奥原淳子 夢沼憲子 長崎清美
6・7 (8)	平成27年 1月17日 11:00-13:30	2.5時間	認定NPO法人難民 を助ける会会議ス ペース	14人 (実践者: 4人・見学 者:10人)	日本(16) ミャンマー (12)	ワークショップ実践 ① 「安全な自転車の 乗り方」	■実践(「自転車」) ■振り返り	なし	奥原淳子 夢沼憲子 長崎清美
6・7 (9)	平成27年 1月24日 18:00-20:00	2時間	認定NPO法人難民 を助ける会会議ス ペース	6人	日本(6)	1月31日ワーク ショップ実践の事 前打ち合わせ	1月32日ワークショップ実践のための事前準備	なし	奥原淳子 矢崎理恵
6・7 (10)	平成27年 1月31日 10:00-11:00	1時間	認定NPO法人難民 を助ける会会議ス ペース	7人	日本(6) ミャンマー (1)	ワークショップ実践 の当日準備	ワークショップ実践のための最終準備 通訳者/講師との打合せ	なし	奥原淳子 夢沼憲子 長崎清美
6・7 (11)	平成27年 1月31日 11:00-13:30	2.5時間	認定NPO法人難民 を助ける会会議ス ペース	12人 (実践者: 6人・見学 者:6人)	日本(12) ミャンマー (15)	ワークショップ実践 ② 「美容と身だしな み」	■実践(「スキンケア」) ■振り返り	なし	奥原淳子 夢沼憲子 長崎清美
6・7 (12)	平成27年 1月31日 14:00-17:00	3時間	認定NPO法人難民 を助ける会会議ス ペース	4人	日本(4)	2月14日ワーク ショップ実践の事 前打ち合わせ	2月14日ワークショップ実践のための事前準備	なし	奥原淳子 夢沼憲子 長崎清美
6・7 (13)	平成27年 2月7日 17:00-19:00	2時間	認定NPO法人難民 を助ける会会議ス ペース	4人	日本(4)	2月14日ワーク ショップ実践の事 前打ち合わせ	2月14日ワークショップ実践のための事前準備	なし	奥原淳子 長崎清美
6・7 (14)	平成27年 2月14日 10:00-11:00	1時間	認定NPO法人難民 を助ける会会議ス ペース	5人口	日本(4)	ワークショップ実践 の当日準備	ワークショップ実践のための最終準備 通訳者との打合せ	なし	奥原淳子 夢沼憲子 長崎清美
6・7 (15)	平成27年 2月14日 11:00-13:30	2.5時間	認定NPO法人難民 を助ける会会議ス ペース	8人 (実践者: 4人・見学 者:4人)	日本(8人)	ワークショップ実践 ③ 「面接を受けよう」	■実践(「面接」) ■振り返り	なし	奥原淳子 夢沼憲子 長崎清美
6・7 (16)	平成27年 2月15日 13:00-16:00	3時間	認定NPO法人難民 を助ける会会議ス ペース	4人	日本(4)	2月28日ワーク ショップ実践の事 前準備	2月28日ワークショップ実践のための事前準備	なし	奥原淳子 長崎清美
6・7 (17)	平成27年 2月25日 13:00-16:00	3時間	認定NPO法人難民 を助ける会会議ス ペース	3人	日本(3)	2月28日ワーク ショップ実践の事 前準備	2月28日ワークショップ実践のための事前準備	なし	奥原淳子 長崎清美(15:00 ～)
6・7 (18)	平成27年 2月28日 10:00-11:00	1時間	認定NPO法人難民 を助ける会会議ス ペース	5人口	日本(4) ミャンマー (4)	2月28日ワーク ショップ実践の当 日準備	ワークショップ実践のための最終準備 通訳者との打合せ	なし	奥原淳子 夢沼憲子 長崎清美
6・7 (19)	平成27年 2月28日 11:00-13:30	2.5時間	認定NPO法人難民 を助ける会会議ス ペース	9人 (実践者: 4人・見学 者:5人)	日本人(10 人) ミャンマー (17人)	ワークショップ④ 「お弁当を作ろう」	■実践(「お弁当」) ■振り返り	なし	奥原淳子 夢沼憲子 長崎清美
8 (20)	平成27年 3月14日 13:10-15:40	2.5時間	TKPスター貸会議室 御茶ノ水駅前	14人	日本(14)	講座⑤ ワークショップ実践 の振り返り	■ワークショップ・講座を振り返る(グループでの話し 合い) ■発表 ・実践の内容 ・講座を通しての気づき ■運営サイドからの気づき ■講評(西原鈴子先生)	西原鈴子	奥原淳子 夢沼憲子 長崎清美 矢崎理恵

(8) 受講者の募集方法

- ・さぽうと21ホームページ上での案内 <http://support21.or.jp/news/2014/08/12316/>
- ・さぽうと21学習支援室内での案内
- ・過去受講者やさぽうと21ボランティア、東京都内日本語教室、さぽうと21関係者への電子メールでの案内
- ・「文化庁日本語教育大会」(平成26年8月29日・30日実施)でのチラシ配布

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)

■第4回 講座日時:平成26年11月29日(土)13:10-15:40 【参加者】17名

□前半13:10-14:40 講座:「漢字の学び方」を学ぶ

【講師】夢沼憲子 【講義補助者】奥原淳子・長崎清美

<ねらい>学習者が難しいと言う漢字をどのような点に気を付けて指導していったらいいのかを提示し、漢字教育の支援について理解を深める

<進め方>

*受講者は4つのグループ(各グループ4～5名)に分かれて着席。

*PPT・ホワイトボード使用。

*説明には例を多用し、また、タスクをするなどして講師からの一方向の講義でなくインタラクティブに進めるよう配慮した。

<内容>

1. どうして漢字が大切か(日常生活の中に漢字が溢れている、漢字は表意文字)
2. どうして漢字は難しいのか(音読みと訓読み、字形、1画違うだけで意味が違う、同音異義が多い、偏や旁が同じ文字が多い、漢字を組み合わせた漢字語彙が多い)
3. 学習者にとって必要な漢字とは(学習者によって必要とされる漢字が違う)
4. 漢字は書けることより、まず正確に読めることが大切(違った意味にとられる)
5. 漢字はパーツからできている(いろいろな偏)
6. 漢字が好きになるには

*楽しく学習する ①ゲーム(駅名・名前・地名・すごろく) ②クイズ(画数・形容詞・筆順) ③カード

*文章を読む・書くことを通して、実際に使ってみる

7. タスク(1つのテーマになる漢字語彙から連想する言葉を考えていき、それらの語彙を使って、物語を作り、発表→どのように漢字を使うか、文章の中で理解する)

<所感>

「漢字」は各教室でも学習者のニーズの高い事であるようで、参加者が各人の経験をもとに、非常に熱心に受講・参加していた。

□後半14:40-15:40 ワークショップ実践のためのグループディスカッション

【講義補助者】奥原淳子・夢沼憲子・長崎清美

<ねらい>1月～2月に予定する各チームの実践に向けて準備を進める。

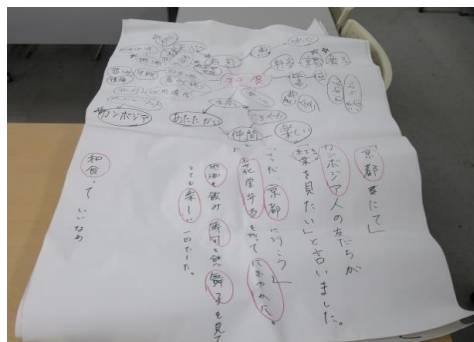
<内容>実践に向け、当日の活動の流れをより具体的に作る。次回(12月13日)は、教案、通訳・翻訳の有無、実践に必要な準備品などを決定することを確認。

□15:35-15:40 アンケート

<所感>

毎回のことながら、各グループ非常に熱心に取り組んでいた。メンバーが顔を合わせて話し合う時間が限られているため、講座内での打合せはナビゲーターの入る余地もないほどの集中度であった。

グループによって進み具合が異なり、遅れ気味のグループへの対応が課題となった。



■第7回

※1月～2月の実践期間中は、各チームにより事前指導にあてた時間が異なる

※以下は2月14日(土)に実践を実施したチームに対する事前指導、当日事前指導、実践見守り、実践後振り返りである

□事前指導日時:平成27年1月31日(土)13:30-18:00

【参加者】4名 【講義補助者】奥原淳子・蓼沼淳子・長崎清美

<内容>

紙面上で作ってきた授業の流れ(教案)を基に、時間軸に沿って内容を検討した。それにより多くの課題が浮かび上がってきたが、4人の実践者が積極的に意見を交換し合い、大きな流れや手法が決定した。

□事前指導日時:2月7日(土)17:00-19:00

【参加者】4名 【講義補助者】奥原淳子・長崎清美

<内容>

・当日の会場となる部屋の下見。机やホワイトボードの配置を検討。ワークショップの流れに沿って、動線を確認した。

・教案を基に実践に近い形で流れを確認し、細部について検討した。

□実践当日指導:2月14日(土)9:00-11:00

【参加者】4名 【講義補助者】奥原淳子・蓼沼淳子・長崎清美

<内容>

・通訳をまじえて流れを確認した。

・学習者のバックグラウンドを考慮したグループを編成を行った。

□実践・実践後の振り返り:2月14日(土)11:00-12:30、12:30-13:30

【参加者】実践者4名+見学者4名 【講義補助者】奥原淳子・蓼沼淳子・長崎清美

<内容>

・実践

(※今回の4回の実践は全て、事前に当日のプレゼンテーション資料・配布資料をスキルアップ講座受講者間で共有している。そのため、見学者も流れやポイントを把握しての見学ができていた)

・実践後、参加者8名と講義補助者3名で振り返り

KPT法を用いて、有意義な意見交換となった。

(※今回の4回の実践は全て同様の手法で振り返りを行い、振り返り終了後に、そのまとめを参加者間で共有した。)

振り返りのまとめは、以下の通り

○Keep(とてもよかったと感じたこと・今後も続けたいこと)

・脚本がしっかりしていたので、とてもやりやすかった

・面接のマナーを学んでもらえてよかった

・面接に必要なやる気、明るさが再認識できた

・司会と学習者の距離が近くてよかった

・各メンバーの良さを生かして、学習者と接していてよかった

・学習者のほとんどが既に仕事をしていたので、面接に対する知識があり、スムーズにできた(事務局が学習者を選んで集めてくださったことが有効的だった)

・テーマ:学習者の必要性、主体性のバランスがよかった

体験学習がよくできた(実際に部屋への出入りの練習、面接を行った)ので、リアル感があった

・時間:流れがスムーズだったことと、学習者のノリが良かったため、時間通りに運んだ

最後に共有する時間があつた(学習者たちはお互いに褒めるだけではなく、アドバイスもした)

・通訳:一人だけに専念できたので、時間的にも効果だった

・グループ活動の良さが出て、みんな楽しそうだった

・「個人」ではなく「グループ」で実践することのよさ、面白さが実感できたWSだった。「1vs多」だけではなく、「多vs多」の形を効果的に活用できた

○Problem(問題があり、解決したいこと・気をつけたいこと)

・実践者はそれぞれバックグラウンドが異なるので、WSを創り上げていくのに努力を要した

・通しのリハーサルがあまりできなかった

・職種による面接の違いにも触れたら、もっとよかった

・前半に学んだ座り方や手の位置なども含めたチェックができるとなおよかった。面接官は話に集中し、全体を評価する視点を持つのが難しいため、何かしらの工夫ができればよい。

・おじぎの練習がもう少しできたらよかった



(10) 目標の達成状況・成果

①各回と最終回に実施したアンケート、および②コーディネーター・ナビゲーターの観察により目標の達成状況・成果を検証する。

まず、以下に、総括として記してもらった最終回アンケートの結果(一部抜粋)を示す。

1. 最終回アンケート集計結果(回答数17)

	大変有意義だった	有意義だった	どちらでもない	あまり有意義ではなかった	全く有意義ではなかった	無回答
1.講座(タスク・教材作成・漢字)はいかがでしたか。	4	13	0	0	0	1
2.日本語教室はいかがでしたか。	12	6	0	0	0	0
3.ワークショップはいかがでしたか。	4	14	0	0	0	0
4.「体験型・参加型」講座はいかがでしたか。	5	12	1	0	0	0
計	25	45	1	0	0	1
	35%	63%	1%	0%	0%	1%

●質問4. (2)どのような点からそう思いましたか。(抜粋)

- ・年齢もバックグラウンドも違う人たちと、仕事以外でひとつのゴール(ワークショップを作る)に向かっていけたこと。とまどったり、嫌な思いもしたが、それも含めてよい経験だったと思っている。
- ・学習者の立場に立って考えることができた。目線をもっとも学習者に合わせるよういろいろ試行錯誤の場だった。
- ・初めての教案作成、教材作成に関わり、指導者側の困難や楽しさを実感できた。
- ・企画から実践まで、難しさを「体験」できた。
- ・ワークショップのイメージが分からなかったのも、最初、何をどうしたらいいか迷った。
- ・内容が盛りだくさんなのに、スケジュールに余裕がなく、どんどん進められるので、講義についていけず未消化、未習熟に終わってしまった。
- ・私の教室では、今回のワークショップのような方式は、準備が大変で実行が難しいと思われる。年に最低一度は文化交流を実施するのは重要だと思うが、できる範囲にとどまるしかない。お金と時間をかければそれなりに素晴らしいものができるのは当然。
- ・講義については普通で、目新しいものは感じなかった。教え方の実践についてもっと勉強したかった。

●質問5. 今回の講座で最も学びを感じたのはどんな点ですか。(抜粋)

- ・いろいろな学習者を教えている方々と交流ができたこと。自分の知らなかった活動方法があり、今後取り入れることを検討できたこと。
- ・知らない人同士がいきなりグループとなり、一つの目的のために話し合い、プランを立てていくプロセスを経験できたこと。
- ・ワークショップという日本語教育支援のやり方があること。講師だけが説明するのではなく、学習者自身が体を動かしたり、学習者同士で助け合う授業にするために、さまざまな方法があること。
- ・グループワークの難しさ。(情報共有、連絡方法、作業の分担、リーダーシップの重要性、温度差の違うメンバーにどう参加を促すか、など)
- ・協力者の負担の偏りがなく、誰もが気持ちよく関わっていけるように、無理なく継続して協力したくなるような運営が重要だということ。
- ・参加型の方向で学習方針はいいのだと確信できたこと。
- ・日本語教室を見学することで、他の団体・グループのようすがわかり参考になった。

●質問6. 今回の講座でもっとも大変だと感じたのはどんな点ですか。(抜粋)

- ・ワークショップのために、講座出席以外の時間を使うことは、楽しかったけれど大変だった。(準備、リハーサルなど)
- ・メールでなくなるべく会って話し合う必要性。
- ・グループ内でのPCスキルの違いによる負担の偏り。
- ・ワークショップのテーマ設定。

●質問7. その他(抜粋)

- ・自分の指導で悩んでいることの情報交換ができればよかった。
- ・座学とワークショップは日程を分けて実施したほうがよかった。
- ・教案へのフィードバックをもっと早くもらえれば、違ったアプローチが検討できたと思う。
- ・ナビゲーターからもっとアドバイスがほしかった。
- ・日本語に関する情報がもう少しほしかった。(レベル別の指導法など)
- ・日本語指導の勉強をしたかったのも、ワークショップをされると言われても、最初はわからなかった。良い経験にはなったが、ワークショップではなくただのプレゼンテーションに終わったと思っている。

初対面の人たちと協力して(学習者向け)ワークショップを作る作業は大変だったものの、その過程を通して多くの学びがあり、「体験・共有・協働」という本講座の目標・目的の大切さはしっかり伝わったことと考えられる。ただ、「学習者向けワークショップ」を「ワークショップ」で作り上げるという二重の構造は分かりにくかったかもしれない。その懸念もあり、講座第1回目で、ナビゲーターからは講座の意図することが示され、「ワークショップ」について「多様な人たちが主体的に参加し、チームの相互作用を通じて新しい創造と学習を生み出す場」(出典:『ワークショップ・デザイン 知をつむぐ対話の場づくり』日本経済新聞社)という定義が共有されたが、その共通認識が、全体で十分に共有されてはいなかった。受講者の戸惑いが上記のアンケート結果に見られる。

しかしながら、最終的に振り返れば、今回のスキルアップ講座は、まさに上記ワークショップの定義に示された学びそのものを参加者のみならず、ナビゲーターも体感する貴重な場となった。

「日本語学習とは何かを問い直すこと」、「学習者はもちろん、共に支援するボランティア仲間、さらには地域や関連機関と連携していくことの重要性や方策を体感してもらうこと」という「スキルアップ講座」の目的は、十分に達成できたと判断する。

また、「パワーアップ講座」の目標であった「実践するヒト」を育てるという点からも、その目標が見事に達成された。今回は、講座中、また講座終了後、「研修で新たな気づきや学びを得た」「自分の所でも早速仲間と相談をして、ワークショップを実施してみた」という報告が数多く寄せられた。参加者の意識の変容に、主催者側も驚かされるほどである。

(11) 改善点について

よりよい講座とするために、2つの点を挙げたい。

1. 講座内容の事前共有

今回、「体験型・参加型」というスタイルの講座とし、その三本柱として、①講座、②日本語教室見学、③ワークショップ企画、を据えた。第1回目に、今回の講座のねらい、進め方を説明したものの、「ワークショップ」のイメージが各自違っていたり、実際に外国人学習者に対して実施する「ワークショップ」と、その準備をする受講者が参加している講座自体も「ワークショップ」形式になっていることから、受講者の頭の中で、今回の講座で何をするのかがはっきりわからないままスタートしてしまっただころがあった。

また、三本の柱についても、日本語支援という大きな枠組みの中では関連するものではあるものの、当面の目標である「外国人学習者へのワークショップ実践」に直接関連性が見えなかったために、受講生にとっては負担が大きく感じられるものだった。もっとわかりやすい説明やシンプルな構成にしたほうがよかったのではないかと感じている。

2. 講座の内容、スケジュール、実施時の留意点

1に記したとおり、三本の柱がどう関係しているのか、もう少しわかりやすく見える形にしたほうがよかった。たとえば、ワークショップ実践を軸にして、ワークショップですぐに使えるような手法を学び、すでにこうしたワークショップを実施している団体の活動を見学するような形である。特に、ワークショップについては、さばうと21でのようすを映像で少し紹介しただけなので、イメージがわきにくく、実践間際まで受講者と企画者側との認識の違いがあった。今回の講座は、講座時間内だけではなく、教案作成、リハーサルなど、その準備にかなりの時間が割かれたが、こうした作業の負荷はグループによってかなり違いがあり、負担に感じた受講者も少なくなかった。ワークショップ準備にかかる時間は、企画者側の想像以上でもあったが、準備時間をもう少し考慮しスケジュールを作成する必要があったと思う。

最後に、ワークショップの準備にどの程度、ナビゲーターが関わるべきだったのかということである。今回、受講者のグループごとの話し合いでは、受講者の主体的な関わりを期待し、ナビゲーターが話し合いを誘導しないよう心掛けた。しかし、グループによってはメンバーだけで解決しにくい問題などもあり、ナビゲーターという立場からのアドバイスが欲しかったという意見もあった。結果として、今回の講座では、こうしたグループ活動でよく直面する問題(各地域教室でも起こりそうなこと)を体験し、それを乗り越えてワークショップを作り上げることができたので、すべてがよい経験になったというフィードバックを得たが、精神的な面でもう少し支えになることができたのではないかと反省が残った。

以上のような反省点を次回に生かし、より充実した事業を展開していきたい。

(1) 講座名称

日本語教室ボランティアのための理解を深める講座

(2) 目的・目標

地域日本語教室で活動するボランティアが、共に学ぶ「生活者としての外国人」について理解を深めること。自らの教室活動を、多文化共生・ダイバーシティの別の視点からとらえ直し、日々の活動の振り返りや改善を意識できるようになること。

(3) 対象者

地域日本語教室でボランティアとして活動している人、または活動に関心がある人

(4) 開催時間数(回数) 8 時間 (全 2 回)

(5) 使用した教材・リソース
・講師作成資料

(6) 受講者の総数 58 人
出身・国籍別内訳

中国	1 人	インドネシア	人	※他の国籍の場合は以下に国籍と人数を記載してください
韓国	3 人	タイ	人	
ブラジル	人	ペルー	人	
ベトナム	人	フィリピン	人	
ネパール	人	日本	54 人	

(7) 養成・研修の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	補助者名
1	平成26年11月30日(日) 13時-17時10分	4時間	認定NPO法人難民を助ける会会議スペース	25人	日本(23人)、韓国(1人)、中国(1人)	「多文化共生…医療通訳に何ができる??」	1村松紀子氏講演 2村松紀子氏・鶴川晃氏による対談	村松 紀子 鶴川 晃	なし
2	平成27年1月18日(日) 13時-17時10分	4時間	認定NPO法人難民を助ける会会議スペース	33人	日本(31人)、韓国(2人)	「多文化共生…大学に何ができる??」	1結城恵氏講演 2結城恵氏・小林あけみ氏・坂本裕美氏によるパネルディスカッション	結城 恵 小林 あけみ 坂本 裕美 人見 泰弘(ファシリテーター)	なし

(8) 受講者の募集方法

- ・さぼうと21ホームページ上での案内
<http://support21.or.jp/news/2014/11/12868/> <http://support21.or.jp/news/2015/01/13046/>
- ・さぼうと21学習支援室内での案内
- ・過去受講者やさぼうと21ボランティア、東京都内日本語教室、さぼうと21関係者への電子メールでの案内
- ・「文化庁日本語教育大会」(平成26年8月29日・30日実施)でのチラシ配布

(9) 特徴的な授業風景(2~3回分)

■第1回「多文化共生…医療通訳に何ができる??」
講座日時:平成26年11月30日(土)13:10-17:10
【ねらい】
日本語教育支援とは異なる視点(医療通訳)から在住外国人やそのおかれた社会を見てみることで、地域日本語教室の日々の活動の振り返りや改善を意識できるようになること。
【参加者】25名
□前半13:10-14:30 講演「多文化共生…医療通訳に何ができる??」
＜講師＞村松紀子
＜内容＞「日本の外国籍住民」「医療通訳者のパターンや必要な資質」「医療通訳の特徴」、「医療現場における言葉の問題」「外国人患者特有のリスク」「医療通訳者に期待される役割、倫理規定」「現状と課題」などについて、実例やご経験をまじえながら講演。途中、ビデオ「Working with interpreters」視聴。
□後半14:40-15:40 対談
＜講師＞村松紀子・鶴川晃
＜内容＞医療通訳者である村松氏と、精神看護の専門家鶴川晃氏が「医療者と医療通訳者の連携」というテーマで対談。医療者と医療通訳者が互いの役割を理解し、患者と家族にいかに向き合っていくか、フロアからの積極的な参加も見られ、有意義なディスカッションが展開された。



■第2回「多文化共生・・・大学に何ができる??」

講座日時:平成27年1月18日(土)13:10-17:10

【ねらい】

多文化共生・ダイバーシティについて、日本語教育支援とは異なる視点(大学)から見てみることで、地域日本語教室の日々の活動の振り返りや改善を考え直すこと。

【参加者】33名

□前半13:10-14:30 講演「多文化共生・・・大学に何ができる??」

＜講師＞結城恵

＜内容＞「多文化共生社会において大学の果たしうる役割」をご自身の実践や様々なデータを裏付けとしながら講演。結城氏からは大学の果たす役割として、「①社会を分析して取り組みの方向性を示すこと(たとえば、不就学、社会保険、地震体験と避難方法など、これから社会が取り組むテーマを探り出すようなこと)、②他地域に適応可能なモデルを提示すること、③人材を養成すること(問題把握や提言を出せるようにするなど)、④社会的な仕組みを作ること(自治体も巻き込みながら)、⑤できることとできないことを明示すること」があげられ、「大学」「自治体」「NPO等」に期待される役割もあわせて示された。

□後半14:40-15:40 パネルディスカッション

＜講師＞結城恵・小林あけみ・坂本裕美・人見泰弘(ファシリテーター)

＜内容＞平成25年度文化庁委託事業の経験をもとに実施された事業が紹介された。事業の対象である在住外国人のニーズ調査を徹底的に行うことから事業の組み立てを行ったとの説明があった後、小林氏からは「健康」、坂本氏からは「防災」についての実践が報告された。参加者からも質問用紙によってさまざまな質問が寄せられたが、それらについては十分なディスカッションの時間が設けられなかった。



(10) 目標の達成状況・成果

●①各回のワークショップ後に参加者に対して行ったアンケートの結果、②運営委員の観察により達成状況・成果を検討する。

まず、「理解を深める講座」の目的として掲げた「地域日本語教室で活動するボランティアが、共に学ぶ「生活者としての外国人」について理解を深めること」「自らの教室活動を、多文化共生・ダイバーシティの別の視点からとらえ直し、日々の活動の振り返りや改善を意識できるようになること」については、ほぼ期待した通りの成果をおさめたと判断する。

●第1回アンケート結果(回収数23)

	大変有意義 だった	有意義だった	どちらでもない	あまり有意義 ではなかった	全く有意義で はなかった	無回答
(1)内容は医療通訳の現状や課題 を理解するのに役立ちましたか？	15	6	0	0	0	2
(2)内容は「医療通訳支援から考える 「言葉」と「ところ」を理解するの に役立ちましたか？	11	2	0	0	0	10

●第2回アンケート結果(回収数23)

	大変有意義 だった	有意義だった	どちらでもない	あまり有意義 ではなかった	全く有意義で はなかった	無回答
(1)内容は「多文化共生社会におけ る大学の役割」についての現状や 課題を理解するのに役立ちました か？	20	6	0	0	0	1
(2)内容は「多文化共生社会におけ る大学の役割」についての現状や 課題を理解するのに役立ちました か？	15	7	1	0	0	4

上記の結果から、2回の講座どちらも参加者より高い評価を得ていることが分かる。

その理由として、第1回の「医療通訳」については、「これまで全く知らない世界だったが、その役割が大変よく分かった」という回答が複数見られた。また、後半の対談についても、「異なる文化を読み解く必要性」や「外国人住民に対し、医療者と医療通訳者がチームで対応していく必要性」への認識を新たにしたいという趣旨の回答が目立った。

第2回の「大学」については、現場での実践をもとに語られた内容に、「予想以上にすごいプログラムを実施されていてびっくりしました」「大変明快に大学の役割がわかった」「大変感心し、心強く感じた」など賞賛の声が多く寄せられた。「生きて使えることばを学べるという言葉が衝撃的だった」「教える側、習う側が一方通行ではなく、相互作用していることがよくわかり、刺激的だった」「日本語のみではなく、多文化共生の観点から再度活動を検討していきたい」など、参加者に多くの気づきがあったことが、その記述からもうかがえる。

(11) 改善点について

講座の内容が非常に有意義なものであるだけに、より多くの方々に講座開催の情報を伝える「広報」について検討が必要である。また、開催後に、当会ブログにてその内容を記録として残していくことも、考えていきたい。

7. 日本語教育のための学習教材の作成

(1) 教材名称

- ①当会作成の動画教材「生活場面切取動画」付属紙教材
- ②「生活力UP！」のための活動型講座実践集
- ③「生活場面切取動画」「ミニ場面集3～こんな時日本語で・職場編～」

(2) 対象

外国人住民(レベルは問わない)・外国人住民の日本語教育支援にあたるボランティア

(3) 目的・目標

生活者としての外国人のための日本語教育を実施するために有効な、教材を作成すること
各教室の学習者や指導者が、目的や求めにあわせて利用できるようなタイプの教材であることをこころがける。

(4) 構成・総ページ数

- ①当会作成の動画教材「生活場面切取動画」付属紙教材
8本の動画教材に対応する8作品・計16ページ(一部ワークシートあり)
- ②「生活力UP！」のための活動型講座・実践例集
活動型講座の「心得」「お役立ちメモ」、実践例、プレゼンテーション用資料例を提示
- ③「生活場面切取動画」「ミニ場面集3～こんな時日本語で・職場編～」
すでに公開していた作品に加え、さらに上記1シリーズを作成

(5) 教材作成会議の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成26年7月 12日(土)16: 30-18:30	2時間	認定NPO法人難民 を助ける会会議ス ペース	池上 貴之 羽毛田恵美 (矢崎理恵)	1これまでの教材について 2今年度作成予定の教材について	1「はじめの500語」「生活場面切取動画」 などについて、実際の教材を見ながら確 認 2紙教材は羽毛田、動画教材は池上が中 心になって作成を進めることを決定(た だし、動画教材についてはスキルアップ講 座、ワークショップ実践などの関係で当 面は保留)
2	平成27年1月 16日(金)18: 00-19:30	1.5時 間	認定NPO法人難民 を助ける会会議ス ペース	石川苑子 羽毛田恵美 矢崎理恵	1紙教材について	1これまでに作成した紙教材を見ながら、 作成予定教材のイメージすりあわせ
3	平成27年1月 17日(土)17: 00-19:00	2時間	認定NPO法人難民 を助ける会会議ス ペース	石川苑子 羽毛田恵美	1紙教材について	1分担を決定、実際に担当する部分につ いてラフな流れ等を試み、内容やレイアウト、 イラストについて検討
4	平成27年2月 7日(土)17: 00-19:00	2時間	認定NPO法人難民 を助ける会会議ス ペース	石川苑子 羽毛田恵美	1紙教材について	1実際に作成した作品を見ながらイメージ すりあわせ・意見交換・聞き取り調査等
5	平成27年2月 13日(金)	*	※メール上でのやり とり	石川苑子 羽毛田恵美 矢崎理恵	1紙教材について	1 8作品について、とくにタスク部分につ いて検討
6	平成27年3月 4日(水)	*	※メール上でのやり とり	石川苑子 羽毛田恵美 矢崎理恵	1紙教材について	1 羽毛田担当4作品(2/13の検討反映 版)について検討
7	平成27年3月 15日(日)15: 00-18:00	3時間	新宿(喫茶店)	石川苑子 矢崎理恵	1紙教材について	1 石川担当4作品(2/13の検討反映版) について検討

(6) 使い方

①当会作成の動画教材「生活場面切取動画」付属紙教材

パソコン環境、ネット環境のない教室等で、生活上の行為の達成を目指してボランティアと共に学ぶ際に有効な教材である。「対話」への発展を自然に誘う意図で作成されており、ボランティアが一方的に「指導」するタイプの学習とならないように工夫されていることから、紙教材を間に、「学習者と一緒に考えながら話を進めよう」と考えれば、一定の成果が得られる。また、「生活場面切取動画」を見ながら授業を進めるための教師マニュアルとしても利用可能である。

②-1「生活力UP!」のための活動型講座・実践例集

対象や目的が団体によっても異なるであろうことから、まったく同じ活動型講座が実施される可能性は低い。本教材は、活動型講座実施を検討する際のヒントとして、また資料作成のモトとすることができる。なお、本教材は、実践を重ねるたびに、実践例を増やしていく予定であり、「完成版」ではない。

②-2「生活場面切取動画」「ミニ場面集3～こんな時日本語で・職場編～」

素材的な要素が大きいことから、その使用方法も一つに限定されるものではないが、平成26年度は1キープレーズ1作品として完成させており、授業開始時の「今日の一言」として利用することも可能である。

(7) 具体的な活用例

②「生活力UP!」のための活動型講座・実践例集を利用した活動型講座実施のプロセスを以下に記す。

- 1 活動型講座の検討開始⇒「実践例集」でどのような実践があるかを確認する
「対象」「解決したい課題」「予算」「準備にあたる人員」「場所」などを考慮して、講座の内容を決定
- 2 講座の内容の吟味⇒「実践例集」を「実施者」の間で共有
- 3 外部講師の依頼(必要があれば)⇒「実践例集」に示された「外部との交渉」頁を参照
- 4 資料の作成⇒パワーポイントデータの作成等について「実践例集」の「資料の作成」頁を参照
- 5 広報(必要があれば)⇒「実践例集」の「学習者への告知」頁を参照
- 6 実施者(場合により講師)間での内容調整、通訳の手配、機材の確認、アンケート等準備
- 7 リハーサル
- 8 講座実施、謝金支払い、アンケート実施
- 9 上記共有と、振り返り

(8) 成果物の添付

①当会作成の動画教材「生活場面切取動画」付属紙教材

PDFデータにて送信

②「生活力UP!」のための活動型講座実践集

PDFデータ(一部PPTデータにて送信)

③「生活場面切取動画」「ミニ場面集3～こんな時日本語で・職場編～」

データにて送信

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

本事業の目的は、日本に暮らす外国人住民と日本人住民が共に学び、共に社会の一員として成長できるような日本語教室を展開していくこと、そのために必要となる人材育成や教材作成を実施することである。平成26年度は、これまでの3年間にわたる文化庁委託事業実施の経験をもとに、より現場の求めに応じた有益な取り組みを継続実施していく。

各取り組みの目的は以下の通りである。

■日本語教育については、「教室」および「活動型講座」の実施により、日本語教育支援の「モデル」を提供すること

■人材の養成・研修については、参加者の意識を「学ぶヒト」から「実践するヒト」に変えていくこと

■教材については、日本語教育支援の活動に広く利用可能な教材を提供すること。①「生活場面切取動画」付属の紙教材、②活動型講座の実践例集(含む実践のための資料やデータ、動画教材)を作成する

(2) 目標の達成状況・事業の成果

まず、平成23年度以来掲げてきた大目標、「日本に暮らす外国人住民と日本人住民が共に学び、共に社会の一員として成長できるような日本語教育を展開していくこと、そのために必要となる人材育成や教材作成を実施すること」については、期待以上の大きな成果をおさめることができた。これは平成26年度事業の成果というより、難民等外国人住民、100名近いボランティア(多国籍化)が共に活動する現場をもつ団体として、文化庁委託事業を継続してきた成果であるにとらえている。平成26年度も「より現状に即し、有益な取り組み」を心がけてきたが、どの取り組みも他の地域日本語教室のモデルになるものを提示できたと確信する。

■日本語教育については、「教室型」講座では、参加ボランティアが主体的に関わることのできる日本語教室の形が確立しつつある。

また、いわゆる「日本語教室」に加え、「ワークショップ(活動型講座)」を取り入れたことにより「標準的なカリキュラム案」の目的を具現化し、地域日本語教育支援の有益な「モデル」を提供することができた。

■人材の養成・研修については、参加者の意識を「学ぶヒト」から「実践するヒト」に変えていくという目的のため、試行錯誤とディスカッションの連続であったが、前向きな参加者にも支えられ、期待以上の成果を遂げた。

■教材については、作成済みの動画教材を有効利用できるよう付属紙教材を作成し、同時に活動型講座の実践例集、動画教材(「こんな時どうする」)を作成できた。

とくに平成26年度事業の大きな成果は、日本語教育の一環として、「(外国人住民向け)ワークショップ(活動型講座)」を10回にわたり実施した点、そして、人材の養成・研修において、「ワークショップ(活動型講座)」を実践するという形の講座を行った点、にある。従来の日本語教育の形、ボランティア研修の形にとらわれず、現場をもつ当会ならではの取り組みであった。その成果は「活動型講座の実践例集」として提供できたが、この実践例集は「スキルアップ講座」参加者との協働により生まれた産物である。平成26年度事業の成果は、事業に関わった全ての方々(

日本語教室やワークショップ、スキルアップ講座、理解を深める講座参加者、外部講師、指導者、アシスタント、通訳、教材作成者、当会スタッフなど)の大きな協働の取り組みとなった点ではないかと考える。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

当会が支援する難民、中国帰国者、日系定住者等の在留期間はより長期化している。学習者からの期待や求めはより多様化していることを痛感するが、そうした中で、改めて「標準的なカリキュラム案」の目的や目標、言語学習についての考え方は地域日本語教室の活動の指針として重要である。

当会の平成26年度事業も、その指針に導かれ、それを礎にして実施された。今年度に限らず、地域日本語教室において「標準的なカリキュラム案」をより利用しやすいように、「日本語教育のモデル」を提示し、ボランティア向け研修により「実践者」を育て、「教材作成」でツールを提供するという取り組みを続けている。そうした中で、とくに平成26年度は、他団体の活動も積極的に見学に出向き、当会が果たしうる役割を考えることができた。当会が関わる外国人住民、ボランティアが活動の方向を指し示し、実践するパワーを提供してくれていることを改めて大きな力として認識し、現場をもつ団体としてさらに実り多い取り組みを続けていきたい。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

今回は、主に「日本語教育」と「人材の養成」の取り組みで、外部団体、個人との連携が効果的に行われた。

「日本語教室」実施にあたり、難民関連団体から広報面、学習者紹介という形で良好な関係が促進された。また、ワークショップ実施にあたり、「品川保健センター」「大崎警察署」「品川消防署」からの公的な団体との関係づくりが進められた。また、「ワーカーズ・コレクティブ 生活クラブFPの会」他、様々な分野の専門家と講座実施に向けて良好な関係づくりが進められた。これまで外国人住民についてあまり接する機会のなかった方々も多いが、講座実施をきっかけに難民等外国人住民に対して、深い理解を示してくださる方々がほとんどだった。

「人材の養成・スキルアップ講座」では、他の日本語教室を見学に行くことが研修内容に組み入れられていたことから、当会の築いてきたネットワークを強化し、地域日本語教室同士がつながるきっかけを提供できた。また、「理解を深める講座」実施により、多文化共生社会に様々な形で関わる方々同士がつながるきっかけとなった。

(5) 改善点、今後の課題について

各取り組みについての改善点、今後の課題は各項目で記したとおりであるが、ここでは、さらなる「協働」の推進と「連携の強化」を課題としてあげたい。

まず、当会が多くの外国人住民と日々接していること、日本語力を十分に備え、積極的に協力をしてくれる外国人住民が多数いるという環境から、日本語教育、教材作成の各取り組みの中で、そうした「先輩住民」との協働をさらに積極的に進めていきたい。

また、ここ数年築いてきた、他団体との関係、連携体制を大切にし、公的機関や、多文化に理解のある「専門家」が一人でも増えることに期待を寄せている。そのためには、取り組みの中だけでなく、当会の日々の活動でも助言を仰ぐなどして、良好な関係の構築に力を入れたい。そして、それらの関係から生まれた様々な講座や成果物等の発信にも留意し、より多くの地域住民に働きかけをしていきたい。

なお、平成26年度から、当会としては、様々な取り組みが当会独自で実施できるような方策も検討し始めている。公的機関からいただく助成金は、新たな取り組みを展開していくために大変ありがたいものであるが、責任も重いものであり、地域住民に何かしらの形で還元される有意義な取り組みであるのかを検証する姿勢をもち続け、活動を続けていきたいと願っている。

(6) その他参考資料

- 1 案内のチラシ(日本語教室・ワークショップ1回分・スキルアップ講座・理解を深める講座2回分)
- 2 アンケート(日本語教室最終回分・ワークショップ・スキルアップ講座最終回分・理解を深める講座)
- 3 振り返りシート(日本語教室最終回分)
- 4 ニュースレター関連記事掲載部分

たいけん とお まな しょきゅうにほんごこうざ
体験を通して学ぶ初級日本語講座
Japanese Course (Beginner's Level)
Learn through activities

無料 FREE !

にち じ ねん がつ にち ねん がつ にち
日時: 2014年10月11日 - 2015年3月14日

まいしゅうどようび
毎週土曜日 13:00-15:40

ばしょ
場所: ホテルウィング目黒 7階会議室 (目黒駅 徒歩2分)

October.11th 2014 - March.14th 2015

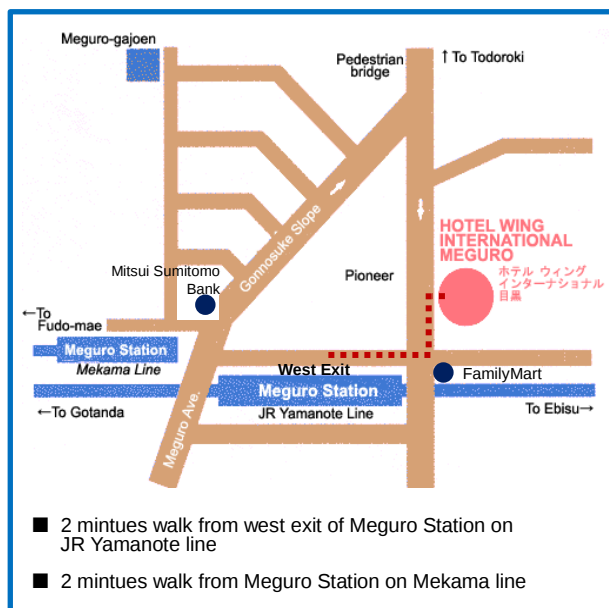
Every Saturday 13:00-15:40

at Hotel Wing Meguro, 7th Floor Meeting Room

(2 minutes walk from Meguro Station)

このコースでは、「街めぐり」「日本人とのおしゃべりタイム」「防災センター体験」「ゴミ処理場見学」「料理」等の体験をする中で、「生活に必要な日本語力」を身につけ、コースが終わるまでには「自分の力で日本語を使って行動できる勇気」をもてるようになることをめざしています。

The goal of this class is to give students the courage to use their own Japanese language skills in daily experiences. To help build those skills, this class will focus on language needed in everyday life and will include such activities as city excursions, a visit to the Disaster Prevention Center and a waste processing center, cooking lessons, speaking opportunities with Japanese and much more.



**Contact Support 21
by Sept. 30, 2014**

〒141-0021 東京都 品川区 上大崎 2-12-2 ミズホビル 3F
Mizuho Bldg. 3F, 2-12-2 Kamiosaki, Shinagawa-ku, Tokyo 141-0021

TEL:03-5449-1331 / FAX:03-5449-1332 / E-mail: info@support21.or.jp

みんないっしょに まな かい 学ぼう会

にほん くら す がいこく みな
日本に暮らす外国ルーツの皆さんのための
「やさしいにほんご」でのワークショップ
あなたもぜひ がいっしょに！

ねん だい かい
2014年 第2回のテーマは

ぼうさい
防災

です！



がつ にち ど
いつ：8月16日（土）

11:00～12:30

どこ：さぽうと21

しながわ く かみ おお さき
品川区上大崎2-12-2 ミズホビル3F
TEL 03-5449-1331

ぼうさい まな
防災について、みんなでいっしょに学びましょう！

そなえ うれ
備えあれば憂いなし！

きぼうしゃ な まえ れんらくさき おし
★希望者はお電話でお名前を連絡先を教えてください！

日本語教室ボランティアのためのパワーアップ講座 ～理解を深める講座編～

第 1 回:2014 年 11 月 30 日(日) 13 時～17 時 10 分

多文化共生…“医療通訳”に何ができる？

講師・モデレーター 村松 紀子 氏
医療通訳研究会 (MEDINT) 代表/医療通訳士協議会 (JAMI) 理事

神戸大学大学院国際協力研究科修士課程修了 (政治学修士)。社会福祉士。
青年海外協力隊員として南米パラグアイに派遣され、帰国後、1993 年から
(公財) 兵庫県国際交流協会スペイン語通訳相談員として勤務。

「母語で安心して医療を受けられる社会づくり」を目指して、2002 年、医療通訳研究会 (MEDINT) を設立し
代表をつとめる。愛知県立大学外国語学部非常勤講師。自治体国際化協会地域国際化推進アドバイザー。



【第1部】 13:00～14:30 講演「医療通訳に何ができる？」村松 紀子氏

村松さんの「医療通訳士」としてのこれまでをお話いただき、「医療通訳」「医療通訳士」について、理解を深めていきたい
と思います。MEDINT という団体を設立し、基盤づくりを進められる一方で、着実にネットワークを広げていらした村
松さんのお話から、改めて「様々なルーツをもつ人間が、日本という一つの国の中で、共に生きていくということ」につ
いて学び合い、考え合える時間となれば、幸いです。

【第2部】 14:40～17:10 対談「医療通訳支援から考える「言葉」と「こころ」

「医療通訳の支援をやればやるほど、「言葉」がしめる部分が自分の中で小さくなります。もちろん、正しく通訳し意図を
伝えることは基本的な人権ですが、医療に関してはその背後にある文化やこころの問題を抜きにして考えると医療通
訳の意味がなくなる。機械翻訳が今後医療通訳に大きな役割を果たすであろう中で、医療通訳者しかできないことを
考えていきたいと思っています。それは人間にしかできない「こころ」を翻訳していくという作業です。

以前から鶴川晃先生の学会発表を聞いた時に、「この方ならどんなふうに考えるだろう」と思っていました。精神看護の
専門家の立場からじっくりお話をさせていただきたいと思い、第2部の対談者としてご登壇をお願いしました。」(村松紀
子)

◆対談者 鶴川 晃氏

大正大学人間環境学科・専任講師/めじろそらクリニック・カウンセラー

大正大学人間学研究科にて博士号取得 (人間学)。精神科看護師、看護大学教員、
難民カウンセラー、スクールカウンセラーを経て、現在、大正大学人間学部専任講師
として勤務。大学で教鞭をとる傍ら、めじろそらクリニックにて、条約難民・難民認定
申請者・仮放免者などでこころに悩みを持つ方、中学生から青年期にかけての方、
思春期の子どもをもつご父母の方々へのカウンセリングを行っている。



主催：社会福祉法人さばうと21 <http://www.support21.or.jp>

【お問い合わせ先】〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-12-2 ミズホビル 3 階

TEL. 03-5449-1331 FAX. 03-5449-1332 [e-mail] kensyu@support21.or.jp

本チラシ裏面「申込書」に必要事項をご記入の上、FAX(03-5449-1332)にてお送りください。
電子メール (kensyu@support21.or.jp) にてお申込みの場合は同様の内容をメール本文にお書きください。

2014 年度「日本語教室ボランティアのためのパワーアップ講座～理解を深める講座～」開講に当たり…

2013 年、外国人住民の支援・応援の現場を訪ねる中で「もっともっとゆっくり話を聞きたい」と思った二人の「専門家」がいます。医療通訳研究会代表の村松紀子さんと群馬大学教授の結城恵さん。「日本語教育」とは違う立場、異なる目線で魅力的な活動をしているお二人です。お二人の共通項は「多文化」「専門性」「つなぐ/つながる」。じっくりお話をうかがう予定です。まずは第1回、村松紀子さん、そして年が明けての第2回は結城恵さんをお招きします。

【予告】

第2回:2015年1月18日(日) 13時～17時10分

多文化共生…“大学”に何ができる？

講師・モデレーター **結城 恵 氏**

群馬大学 大学教育・学生支援機構 教育基盤センター・教授

専門は教育社会学。エスノグラフィの手法を用いて、生活者の視点から多文化共生のあり方を探る。「多文化共生研究プロジェクト」（2002-2004 年度文部科学省地域貢献特別支援選定事業）、「多文化共生社会の構築に貢献する人材の育成」

（2005-2008 年度文部科学省特色ある大学支援プログラム選定事業）、

群馬大学・群馬県「多文化共生推進士」養成ユニット（2009-2013 年度文部科学省社会システム改革と研究開発の一体的促進選定事業）の企画・運営責任者。

東京大学教育学研究科・教育学部客員教授を併任。



第2部はパネルディスカッションを予定しております。（講師交渉中）

【交通のご案内】

JR 目黒駅東口より徒歩3分。

東口階段を降りて左手に進むと、目黒通りにつきあたります。
道路を渡らず、右に曲がるとコンビニ（サークルK）が見えます。
そのビルの3階がさぼうと21です。

当日、皆さまにお会いできますことを心よりお待ちしております。



申込書送付先

メールアドレス: kensyu@support21.or.jp FAX 番号: 03-5449-1332

郵送先: 〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-12-2 ミズホビル 3 階

※ ご記入いただいた情報は、無断で本講座以外の目的に使用することはありません。

※ 今後、当団体が主催する講座のご案内やニュースレター等のご送付を希望されますか。（はい・いいえ）

スキルアップ講座 参加申込書	
【お名前】 ふりがな	【お電話番号】 ※ご連絡が取りやすい番号の記入をお願いいたします。
【ご住所】 〒 -	
【E メールアドレス】	@
【ご所属（ボランティア教室など）】 名称：	活動地域：
★ご質問等があれば、お書きください。	

日本語教室ボランティアのためのパワーアップ講座 ～理解を深める講座編～

第2回:2015 年 1 月 18 日(日) 13 時～17 時 10 分

多文化共生…“大学”に何ができる？

講師・メインパネリスト ^{ゆうき めぐみ} **結城 恵 氏**

群馬大学 大学教育・学生支援機構 教育基盤センター・教授

専門は教育社会学。エスノグラフィの手法を用いて、生活者の視点から多文化共生のあり方を探る。「多文化共生研究プロジェクト」（2002-2004 年度文部科学省地域貢献特別支援選定事業）、「多文化共生社会の構築に貢献する人材の育成」

（2005-2008 年度文部科学省特色ある大学支援プログラム選定事業）、群馬大学・群馬県「多文化共生推進士」養成ユニット（2009-2013 年度文部科学省社会システム改革と研究開発の一体的促進選定事業）の企画・運営責任者。東京大学教育学研究科・教育学部客員教授を併任。



【第1部】 13:00～14:30 講演「“大学”に何ができる？」 結城 恵 氏

結城先生には先生の「ヒストリー」を語っていただきたいとお願いしています。大学に属する研究者、教育者というお立場で、結城先生がどんな風に「多文化共生社会に生かされる人材の育成」を進めておいでなのか、他団体と連携をはかって様々なお取り組みを実現させておいでなのか、お話をさせていただきたいと思っています。

第1回に引き続き、第2回の講座でも、1部、2部を通じて「様々なルーツをもつ人間が、日本という一つの国の中で、共に生きていくということ」について学び合い、考え合える時間となれればと願っています。

【第2部】 14:40～17:10 パネルディスカッション

「多文化共生社会における大学の果たしうる役割とその可能性」

◆パネリスト◆

結城 恵 氏 群馬大学 大学教育・学生支援機構 教育基盤センター教授

小林 あけみ 氏 太田市立小学校教員 国際教室担当 / 「多文化共生推進士」養成ユニット履修生

坂本 裕美 氏 太田市立小学校バイリンガル教員 / 「多文化共生推進士」養成ユニット履修生

ファシリテーター ^{ひとみ やすひろ} **人見 泰弘 氏**

名古屋学院大学 外国語学部専任講師

専門は国際社会学。とくにヒトのグローバル化について研究している。

大学では国際移民論や国際文化論、国際協力実習などを担当。ゼミでは多文化共生をテーマとして活動しており、2014 年度は東海圏の NGO 有志と協働しつつ、名古屋市内で外国人が経営するお店や宗教施設をまわる「わくわくツアー！名古屋で世界旅行」をゼミ生と企画・運営した。

特定非営利活動法人 名古屋難民支援室(DAN)で理事も務める。



主催：社会福祉法人さぽうと21 <http://www.support21.or.jp>

【お問い合わせ先】〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-12-2 ミズホビル 3 階

TEL. 03-5449-1331 FAX. 03-5449-1332 [e-mail] kensyu@support21.or.jp

本チラシ裏面「申込書」に必要事項をご記入の上、FAX(03-5449-1332)にてお送りください。

電子メール(kensyu@support21.or.jp)にてお申込みの場合は同様の内容をメール本文にお書きください。

2014 年度「日本語教室ボランティアのためのパワーアップ講座～理解を深める講座～」開講に当たり…

2013 年、外国人住民の支援・応援の現場を訪ねる中で「もっともっとゆっくり話を聞きたい」と思った二人の「専門家」がいます。医療通訳研究会代表の村松紀子さんと群馬大学教授の結城恵さん。「日本語教育」とは違う立場、異なる目線で魅力的な活動をしているお二人です。お二人の共通項は「多文化」「専門性」「つなぐ/つながる」。

村松さんにお越しいただいた第1回（2014 年 11 月 30 日実施）も期待通り、多くを学び、考えるきっかけをいただきました。参加者の皆さんからも「豊富なご経験の中での事例から学ぶことがたくさんありました」「通訳者としての技術ではなく、医療従事者、通訳者、患者を取り巻く全体的な問題についてと解決への希望に満ちたお話でとてもよかった」など、ご感想をいただいています。

2015 年 1 月 18 日、新しい年の幕開けにふさわしい 1 日となることを確信しています。

「生まれ育った文化や社会が異なる人々がともに生きる社会。そこで生まれる葛藤や軋轢は、実に複雑多様である。群馬県においても、「多文化共生」に関わる地域での課題は山積し、教育、医療、社会福祉、防災等、多様な領域で葛藤や軋轢が生じていた。解決するより早く顕在化する次の問題。対症療法で終わってしまう実践。この状況に疲弊していく行政担当者も少なくなかった。これらの課題解決を前向きに取り組み、地域活性化につなげる人材を育成し、いつでも協働体制を組める拠点を作る必要がある。群馬大学・群馬県「多文化共生推進士」養成ユニットの目的はここにある。多文化共生に関する地域課題に対応しなくてはならないのは、行政関係者だけではない。教育、保健・医療、社会福祉、防災、安全・安心、経営、コミュニティーの活性化等、生活のあらゆる局面で対応する人材が必要である。本事業では、これら多様な領域の最前線で活躍する専門的職業人を募り、選考を経た履修生を 3 年間かけて養成する。」（『自治体国際化フォーラム』2012 年 8 月号「多文化共生」の視点で地域を活性化する― 群馬大学・群馬県「多文化共生推進士」養成ユニットの挑戦 ― より一部抜粋）

【交通のご案内】

JR 目黒駅東口より徒歩 3 分。

東口階段を降りて左手に進むと、目黒通りにつきあたります。
道路を渡らず、右に曲がるとコンビニ（サークル K）が見えます。
そのビルの 3 階がさぼうと 21 です。

当日、皆さまにお会いできますことを心よりお待ちしております。



申込書送付先

メールアドレス： kensyu@support21.or.jp FAX 番号： 03-5449-1332
郵送先： 〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-12-2 ミズホビル 3 階

- ※ ご記入いただいた情報は、無断で本講座以外の目的に使用することはありません。
- ※ 今後、当団体が主催する講座のご案内やニュースレター等のご送付を希望されますか。（はい・いいえ）

【第 2 回】理解を深める講座 参加申込書

【お名前】 ふりがな	【お電話番号】 ※ご連絡が取りやすい番号の記入をお願いいたします。
【ご住所】 〒 -	
【E メールアドレス】	@
【ご所属（ボランティア教室など）】 名称：	活動地域：
★ご質問等があれば、お書きください。	

【平成26年度文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業】

日本語教室ボランティアのための スキルアップ講座

ボランティア教室で活動中の皆さん、そして、活動に関心をおもちの皆さん、日本語教育支援で戸惑うことはありませんか。「もっともっといい支援をしたい」と思いながら、自分だけで、自分たちだけで迷ったり悩んだりしていませんか。

さらに豊かな支援を実現するために、今年のスキルアップ講座は、「みんなで考えれば百人力!」「みんなでやれば楽しくて身になる!」を合言葉に計画を進めました。受け身の講座は卒業し、より実り多い「体験型・参加型講座」を目指します。

大学の日本語教育の授業とも、日本語教師養成講座の授業とも一味違う「ボランティアのためのパワーアップ講座」です。ぜひ一緒に、より良い講座を作り上げていきましょう!

誰が?	地域日本語教室でボランティアとして活動中の方、活動に関心のある方
何を?	日本語教育支援の現場で使える具体的な方策(「ランキング」等のタスク・漢字学習・教材作成)を共に考え、共有します。 さらにグループで協力して一つの授業(⇒ワークショップ)を計画実行します。 「見る」「知る」「考える」「やってみる」「振り返る」活動を通し、「使える」「実りある」日本語教育支援を参加者全員で探りましょう。
いつ?	【教室内講座】土曜日13時10分から15時40分、全6回 【日本語教室見学】見学する教室によって日時は異なります 【ワークショップ実践】1・2月の土曜日 11時00分から12時30分、全2回 ※詳しい日程、内容については、裏面をご参照ください。
どこで?	TKP スター貸会議室 御茶ノ水駅前 千代田区神田駿河台2-1-18 常和御茶ノ水ビル 2階 JR「御茶ノ水駅」御茶ノ水橋口より徒歩1分 丸の内線「御茶ノ水駅」1番出口より徒歩2分 千代田線「新御茶ノ水駅」B1出口より徒歩3分  ※ワークショップ実践は、さばうと21学習支援室(JR目黒駅最寄り)を予定しております。
いくら?	無料
定員は?	20名(申し込み先着順に受付)
申し込みは?	裏面申込書にご記入の上、メール、FAX、郵送のいずれかでご提出ください。

【お問い合わせ先】社会福祉法人 さばうと21

〒141-0021 東京都品川区上大崎2-12-2 ミズホビル3階

TEL. 03-5449-1331 FAX. 03-5449-1332

[e-mail] info@support21.or.jp [ホームページ] <http://www.support21.or.jp>

さばうと21は、日本で生活するインドシナ難民、条約難民、中国帰国者、日系定住者とその子弟の定住と自立に向けた支援を行う団体です。



講座の詳細日程とテーマ

	開催日（土曜日）	各回のテーマ ※内容については一部変更の可能性があります。
1	9月27日	【講座①】・「ワークショップ実践」を見て考える ・ワークショップを計画する その1 ※10月、11月中に他所の日本語教室を訪問・見学
2	10月18日	【講座②】・「タスク」を学ぶ その1 ・ワークショップを計画する その2
3	11月8日	【講座③】・「教材作成」を学ぶ ・ワークショップを計画する その3
4	11月29日	【講座④】・「漢字の学び方」を学ぶ ・ワークショップを計画する その4
5	12月13日	【講座⑤】・「タスク」を学ぶ その2 ・参加者による日本語教室見学の報告 ・ワークショップを計画する その5
6 ・ 7	1月17日 1月31日 2月14日 2月28日	【ワークショップ実践 ①、②】 ※4つの候補日のうち、実践を1回、見学を1回とする
8	3月14日	【講座⑥】ワークショップ実践を振り返る

西原鈴子氏（国際交流基金日本語国際センター所長）をアドバイザーとしてお迎えし、
私たち3名が 講師 兼 ナビゲーター を務めさせていただきます。

奥原 淳子 おくはらじゅんこ 87年より日本語教育に従事。現在は大学で留学生と日本人の日本語を担当しています。教室で「主役にならない教師」を模索し奮闘中。学習者を能動的にさせる活動をいっしょに創りましょう。	蓼沼 憲子 たでぬまのりこ インドシナ難民の子どもを教えた経験から、仲間と子ども漢字教材『かんじだいすき』を1～6年生まで作成。その後『中学に向けて・教科編』も作成しました。教材作成の楽しさや難しさを経験しています。	長崎 清美 ながさききよみ 92年より日本語教育に従事。好奇心の赴くまま、学校、地域、海外（ケニア）に首をつっこみ、現在はビジネスマンへの日本語研修、留学生の就職活動サポートを中心に活動中。新しい出会いを楽しみましょう！
---	--	--

申込書送付先

メールアドレス： kensyu@support21.or.jp FAX 番号： 03-5449-1332

郵送先： 〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-12-2 ミズホビル 3 階

スキルアップ講座 参加申込書	
【お名前】 ふりがな	【お電話番号】 ※ご連絡が取りやすい番号の記入をお願いいたします。
【ご住所】 〒 -	
【E メールアドレス】 @	
【ご所属（ボランティア教室など）】 名称： 活動地域：	
★ご質問等があれば、お書きください。	

※ ご記入いただいた情報は、無断で本講座以外の目的に使用することはありません。

※ 今後、当団体が主催する講座のご案内やニュースレター等のご送付を希望されますか。（はい・いいえ）

1. 講座前半の活動(講義や全体での活動)に関して、いかがでしたか。○をつけてください。

大変有意義だった 有意義だった どちらでもない あまり有意義ではなかった 全く有意義ではなかった

2. どのような点からそう思われましたか。

3. 講座後半の活動(ワークショップ)に関して、いかがでしたか。○をつけてください。

大変有意義だった 有意義だった どちらでもない あまり有意義ではなかった 全く有意義ではなかった

4. どのような点からそう思われましたか。

5. 何かご意見、ご要望等ありましたら、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました！

1. 講座前半の活動(講義や全体での活動)に関して、いかがでしたか。○をつけてください。

大変有意義だった 有意義だった どちらでもない あまり有意義ではなかった 全く有意義ではなかった

2. どのような点からそう思われましたか。

3. 講座後半の活動(ワークショップ)に関して、いかがでしたか。○をつけてください。

大変有意義だった 有意義だった どちらでもない あまり有意義ではなかった 全く有意義ではなかった

4. どのような点からそう思われましたか。

5. 何かご意見、ご要望等ありましたら、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました！

1. 講座(タスク・教材作成・漢字)はいかがでしたか。

大変有意義だった 有意義だった どちらでもない あまり有意義ではなかった 全く有意義ではなかった

2. 日本語教室見学はいかがでしたか。

大変有意義だった 有意義だった どちらでもない あまり有意義ではなかった 全く有意義ではなかった

3. ワークショップはいかがでしたか。

大変有意義だった 有意義だった どちらでもない あまり有意義ではなかった 全く有意義ではなかった

4. (1)今回は「体験型・参加型」講座でしたが、いかがでしたか。

大変有意義だった 有意義だった どちらでもない あまり有意義ではなかった 全く有意義ではなかった

(2)どのような点からそう思いましたか。

5. 今回の講座で最も学びを感じたのはどんな点ですか。

6. 今回の講座で最も大変だと感じたのはどんな点ですか。

7. その他、何かありましたら、ご自由にお書きください。

毎回ご協力くださり、まことにありがとうございました！

အတူတကွ လေ့လာပွဲ / အစာတစ်ခုကနေ စဉ်းစားတဲ့ စိတ်နဲ့ကိုယ်ရဲ့ ကျန်းမာရေး
 「みんないっしょに学ぼう会 一食から考える心と体の健康」の感想 かんそう

1. 今日のお話 きょう はなし は役に立ちましたか？ やく た ○をつけてください。 まる

ဒီနေ့ရဲ့ အကြောင်းအရာတွေဟာ အမျိုးထိရောက်မှုရှိခဲ့လား ?

とても役に立った やく た 役に立った やく た ふつう ふつう あまり役に立たなかった やく た ぜんぜん役に立たなかった やく た
 အရမ်းအကျိုးရှိခဲ့တာပဲ အကျိုးရှိခဲ့တာပဲ အကျိုးရှိခဲ့တာပဲ အကျိုးရှိခဲ့တာပဲ ခုံမှန် ခုံမှန် ဒီလိုအမျိုးမျိုးခဲသွား ဒီလိုအမျိုးမျိုးခဲသွား ကုသအကျိုးမရှိခဲ့ဘူး ကုသအကျိုးမရှိခဲ့ဘူး

どうしてそう思いましたか？ おも (何語で書いてもOK) (မြန်မာလိုလဲ OK!) なにご か
 အားပြောင်လို့လား ?

2. 今日のお話 きょう はなし の中で、特に印象に残ったこと とく いんしょう のこ (勉強になったこと) べんきょう は何ですか？ なん

ဒီနေ့ရဲ့အကြောင်းအရာတစ်ခုမှာ၊ စိတ်ထဲနွဲ့ကျန်ခဲ့တဲ့ အရာ (သင်ယူလေ့လာနိုင်ခဲ့တာ အရာ) ကတော့လား ?

(何語で書いてもOK) (မြန်မာလိုလဲ OK!)

3. ဒီကဏ္ဍအောက်က အစာအစာဆွဲခွင့်နဲ့ဝတ်သက်ပြီးလေ့လာခဲ့ဖူးမယ်၊ တခြားလေ့လာ ချင်တဲ့အရာရှိသေးသလား ?
 今回 こんかい は食生活 しょくせいかつ について学びましたが、他に学んでみたいことはありますか？ まな ほか まな

နဲ့ပတ်သက်ပြီး သိချင်ပါတယ်
 についてもっと知りたいです。

(何語で書いてもOK) (မြန်မာလိုလဲ OK!)

အခုအချိန်က စပြီး ဒီကျောင်းမှာ အားလုံးက ရွေးချယ်ပွဲ / မိတ်ဝင်စားတဲ့အရာကို ရွေးချယ်ခွင့်ရှိပြီး ဒီလိုပွဲမျိုး ကုသပွဲကလေးပါပဲ။

これからもさぼうとでは、みなさん かんしん が関心のあることをテーマにして、
 「みんないっしょに学ぼう会」 まな かい を開催したいと思っています！ かいさい おも

性 せい 別 べつ (男性 だんせい 女性 じよせい) (外国人 がいこくじん 日本人 にほんじん)

年齢 ねんれい (10代 だい 20代 だい 30代 だい 40代 だい 50代 だい 60代 だい 70代 だい)

10ကျော်သက် 20ကျော်သက် 30ကျော်သက် 40ကျော်သက် 50ကျော်သက် 60ကျော်သက် 70ကျော်သက်

ကျေးဇူးတင်ရှိပါတယ်။
 ご協力 きょうりょく ありがとうございます。

さぼうと 21



ဂျပန်စာအခြေခံသင်တန်း နောက်ဆုံးမေးခွန်းလွှာ

1. 日本語クラスの時間(13時－15時40分)はどうでしたか。

၁။ ဂျပန်စာသင်တန်းချိန် (၁၃နာရီ မှ ၁၅နာရီ ၄၀ မိနစ်) ပြုလုပ်သည်ကိုဘယ်လိုသဘောရပါသလည်း။

☐ 早かった⇒何時からが良かったですか。(時からがよい)

သင်တန်းချိန်စောလွန်းသလား ⇒ ဘယ်အချိန်ဆိုအစဉ်ပြေမလည်း။ (နာရီစရင်အစဉ်ပြေမယ်)

☐ ちょうどよい အတော်ဘဲလား

☐ 遅かった⇒何時からが良かったですか。(時からがよい)

သင်တန်းချိန်နောက်ကျလွန်းသလား ⇒ ဘယ်အချိန်ဆိုအစဉ်ပြေမလည်း။ (နာရီစရင်အစဉ်ပြေမယ်)

2. 日本語クラスの頻度 (週に 1 回) はどうでしたか。

၂။ ဂျပန်စာသင်တန်းအကြိမ်(တပတ် ၁ ကြိမ်)ပြုလုပ်သည်ကိုဘယ်လိုသဘောရပါသလည်း။

☐ もっと多い方がよかった⇒(回ぐらい)

သင်တန်းကြိမ်ဒီထက်များဒါကောင်းသလား ⇒ (ကြိမ်လောက်သင်သင့်တယ်)

☐ ちょうどよい အတော်ဘဲလား

☐ もっと少ない方がよかった⇒(月に 回ぐらい)

သင်တန်းချိန်ဒီထက်နည်းဒါကောင်းသလား ⇒ (တလ ကြိမ်လောက်)

3. 日本語クラスの期間(10月－3月までの約 6 か月間)はどうでしたか。

၃။ ဂျပန်စာသင်တန်းကာလ (အောက်တိုဘာလ မှ မတ်လ အထိ ပျမ်းမျှ ၆ လ) သင်တန်းကိုဘယ်လိုသဘောရပါသလည်း။

☐ 短い တိုတောင်းလွန်းသည် ☐ ちょうどよい အနုစောတော်ဖြစ်သည် ☐ 長い ကြာရှည်လွန်းသည်

4-1. クラスで配布したプリントなどについて、どう思いますか。自由に書いてください。

၄-၁။ သင်တန်းတွင်ဖြန့်ဝေသောစာရွက်စာတမ်းနှင့်ပတ်သက်၍သင်၏အမြင်ကိုလွတ်လပ်စွာရေးပါ။

4-2. 今回のクラスでは、いわゆる「教科書」はありませんでした。それについてどう思いますか。

၄-၂။ ဒီသင်တန်းတွင် (ဖတ်စာအုပ်) ကိုအသုံးမပြုခြင်းအပေါ်မည်သို့ သဘောရပါသလည်း။

5. 授業の中で色々な体験(防災センター・街歩き・料理作りなど)をしました。それは何かあなたのプラスになりましたか。

၅။ သင်တန်းကာလအတွင်း လက်တွေ့ (မီးသတ်ဌာနသို့ သွားရောက်လေ့လာခြင်း၊ မြို့တွင်းလှည့်လည်လေ့လာခြင်း၊ ဟင်းချက်နည်းသင်ကြားခြင်း) ဤအရာများအားဖြင့်သင့်အတွက်တိုးတက်မှုရှိပါသလား။

☐ よく分からない တိုးတက်မှုရှိ/မရှိကိုမသိပါ

☐ プラスになった。⇒どんな点でプラスになったかを具体的に書いてください。

တိုးတက်မှုရှိပါသည်။ ⇒ မည်သို့သောအချက်ကတိုးတက်မှုရှိသည်ကိုအသေးစိတ်ရေးပါ။

☐ とくにプラスにはならなかった。

တိုးတက်မှုမရှိပါ။

6. 今回の日本語クラスは、あなたの日本での生活に役立ちましたか。
6။ ဒီဂျပန်စာသင်တန်းကိုတက်ရောက်ပြီးသင့်၏ဂျပန်နိုင်ငံတွင်နေထိုင်မှုအတွက်အထောက်အကူရှိပါသလား။
受講する前と今を比べて、具体的に書いてください。
သင်တန်းမတက်မှီနှင့်တက်ရောက်ပြီးသင်၏တိုးတက်မှုကိုအသေးစိတ်ရေးပါ။

7. 今回の日本語のクラスを受講して、あなたの日本語力は伸びましたか。
7။ ဒီဂျပန်စာသင်တန်းကိုတက်ရောက်ခြင်းဖြင့်သင့်၏ဂျပန်စာတိုးတက်မှုရှိပါသလား။
受講する前と今を比べて、具体的に書いてください。
သင်တန်းမတက်မှီနှင့်တက်ရောက်ပြီးသင်၏တိုးတက်မှုကိုအသေးစိတ်ရေးပါ။

8. 今回の日本語クラスを受講して、あなた自身に何か変化はありましたか。
8။ ဒီဂျပန်စာသင်တန်းကိုတက်ရောက်ခြင်းဖြင့်သင့်၌ဘာအပြောင်းအလဲရှိပါသလား။
受講する前と今を比べて、具体的に書いてください。
သင်တန်းမတက်မှီနှင့်တက်ရောက်ပြီးသင်၏တိုးတက်မှုကိုအသေးစိတ်ရေးပါ။

9. 今回の日本語クラスは「日本で生活する外国人のための日本語クラス」でした。
၉။ ဒီဂျပန်စာသင်တန်းသည် (ဂျပန်နိုင်ငံအတွင်းနေထိုင်သည့်နိုင်ငံခြားသားများအတွက်ဂျပန်စာသင်တန်း) ဖြစ်သည်။
将来、またこのようなクラスを行う場合、どうしたら、もっと良いクラスになるとおもいますか。
နောက်နောင်ကျိကဲ့သို့ သောသင်တန်းကိုဖွင့်လှစ်လျှင် မည်ကဲ့သို့ သောအကြောင်းအရာများသင်ကြားပါကပို၍
ကောင်းသောသင်တန်းဖြစ်မယ်လို့ ထင်ပါသလည်း။

10. 受講しての感想を自由に書いてください。
၁၀။ သင်တန်းတက်ရောက်ပြီးသင့်၏ခံစားချက်၊ထင်မြင်ချက်၊သဘောတရားကိုလွတ်လပ်စွာရေးပါ။

2014（平成 26）年度
「日本語ボランティアのためのパワーアップ講座～理解を深める講座編～」
—第 1 回—

■第1部(講演)について

(1)内容は医療通訳についての現状や課題を理解するのに役立ちましたか？

大変役立った 役立った どちらとも言えない あまり役立たなかった 全く役立たなかった

理由：

(2)特に関心をもったこと/役立ったことは何ですか。

■第2部(対談)について

(1)内容は「医療通訳支援から考える「言葉」と「こころ」」を理解するのに役立ちましたか？

大変役立った 役立った どちらとも言えない あまり役立たなかった 全く役立たなかった

(2)対談の中で、特に関心をもったこと/役立ったこと、感想などお書きください。

■その他、全体を通じてのご感想など、自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました！

2014（平成 26）年度
「日本語ボランティアのためのパワーアップ講座～理解を深める講座編～」
—第 2 回—

■第 1 部（講演）について

(1) 内容は「多文化共生社会における大学の役割」についての現状や課題を理解するのに役立ちましたか？

大変役立った 役立った どちらとも言えない あまり役立たなかった 全く役立たなかった

理由：

(2) 特に関心をもったこと/役立ったことは何ですか。

■第 2 部（パネルディスカッション）について

(1) 内容は「多文化共生社会における大学の役割」についての現状や課題を理解するのに役立ちましたか？

大変役立った 役立った どちらとも言えない あまり役立たなかった 全く役立たなかった

(2) パネルディスカッションの中で、特に関心をもったこと/役立ったこと、感想などお書きください。

■その他、全体を通じてのご感想など、自由にお書きください。